

昭和 4 5 年度

地力保全基本調査成績書

〔阿寒地域 鶴居村〕

北海道立中央農業試験場

29

序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剝脱要因もあてその地力は消耗低下しつつある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和45年度に行なつた11地域23市町村をとりまとめたもので、ここにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和46年3月

北海道立中央農業試験場

場長 和田 忠雄

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

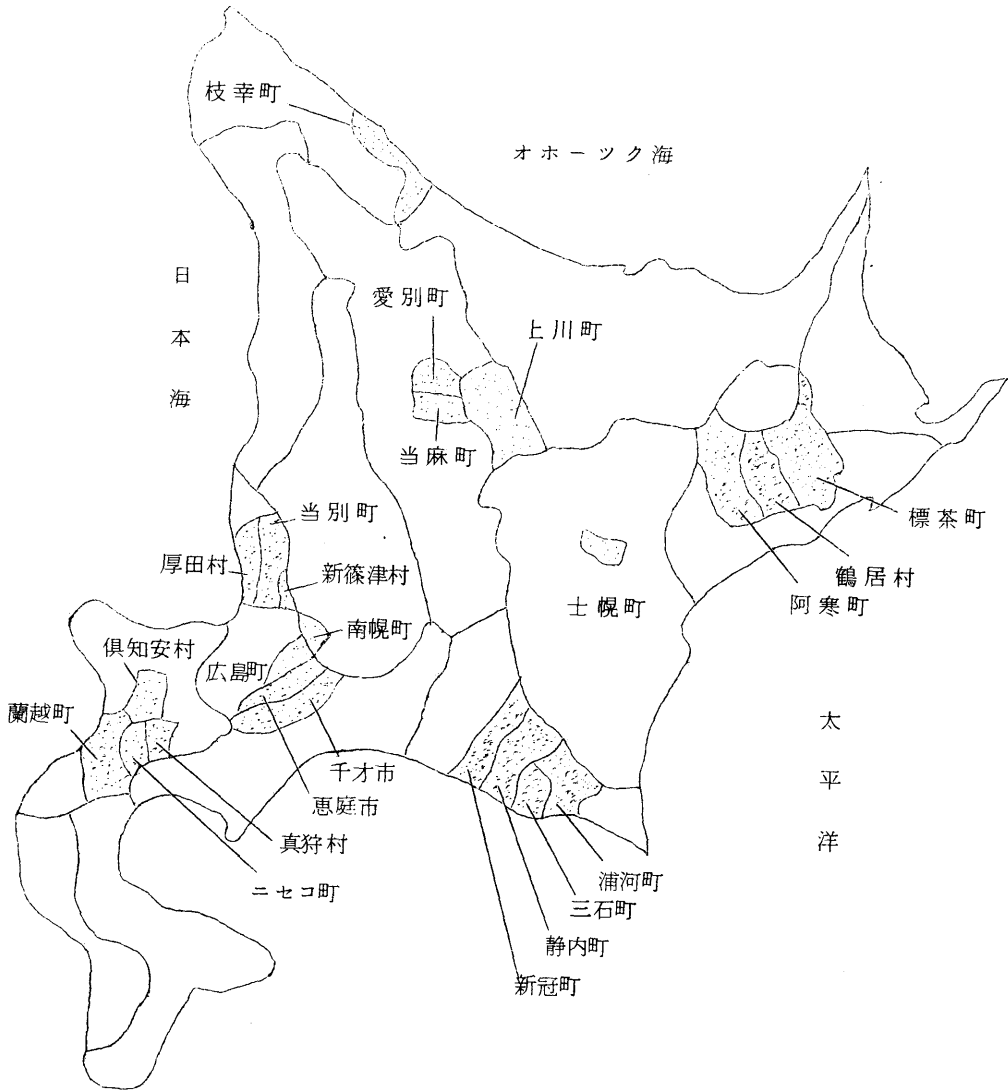
1. 土壌断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号(昭和36年9月、農林省振興局農産課)によつた。
2. 土壌統および区の設定並びに土壌生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号(昭和40年3月、農林省農政局農産課)及び水田土壌統設定第1次案(昭和38年12月、農技研化学部第3課)による。
3. 土壌統および土壌区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壌肥料第1研究室の土性図を参照した。

化学部	部長	森	哲郎
土壌改良科	科長	後藤	計二
	第1係長	小林	荘司
	研究職員	水元	秀彰
	"	伊藤	輝行
	"	木村	清
	"	松原	一実
	第2係長	山口	正栄
	研究職員	小林	茂
	"	宮脇	忠
	"	山本	晴雄
	"	高橋	市十郎
	"	上坂	晶司
十勝農試		菊地	晃二
"		関谷	長昭
"		横井	義雄
北見農試		秋山	喜三郎
上川農試		野崎	輝義
"		土居	晃郎
天北農試		奥村	純一

1. 調査地域一覽

調査地域名	該 当 市町村名	農 地 面 積 (調査対象面積) (ha)		既 調 査 面 積 (ha)		本 年 度 調 査 面 積 (ha)	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
石狩川下流	当 別 町	4,969	4,748	—	—	4,969	4,748
	新 篠 津 村	3,831	1,017	—	—	3,831	1,017
石狩北部沿海	厚 田 村	617	1,605	—	—	617	1,605
石狩川下流	南 幌 町	4,688	1,030	—	—	4,688	1,030
羊 蹄 山 麓	俱 知 安 町	1,263	3,153	—	—	1,263	3,153
	真 狩 村	276	3,788	—	1,700	276	2,088
	ニセコ町	563	3,537	—	2,900	0	637
ニセコ山麓	蘭 越 町	2,188	2,104	—	—	2,188	2,104
	新 冠 町	676	5,282	—	—	676	5,282
日 高 沿 海	静 内 町	948	3,353	—	—	948	3,353
	浦 河 町	730	2,917	—	—	730	2,917
	三 石 町	1,188	1,245	—	—	1,188	1,245
阿 寒	阿 寒 町	20	2,897	—	—	20	2,897
	鶴 居 村	0	2,223	—	—	0	2,223
石 狩 南 部	千 才 市	939	3,465	—	—	939	3,465
	恵 庭 市	3,161	2,413	—	—	3,161	2,413
	広 島 町	1,018	2,063	—	—	1,018	2,063
上 川 中 部	上 川 町	851	665	—	—	851	665
	愛 別 町	1,803	669	—	—	1,803	669
	当 麻 町	4,071	863	—	—	4,071	863
枝幸・雄武	枝 幸 町	0	2,558	—	—	0	2,558
弟 子 屈	標 茶 町	0	10,150	—	—	0	10,150
上 士 幌	士 幌 町	13	11,680	—	1,500	13	10,180
合 計		33,813	73,425	—	6,100	33,250	67,325

調査地区位置図



阿 寒 地 域

鶴 居 村

1 地域の概要

1) 位置および調査面積

(1) 位 置 北海道阿寒郡鶴居村

(2) 調査面積 (ha)

郡 市 町 村 名	農 地 総 面 積				調 査 対 象 面 積			
	水 田	普通畑	樹園地	計	水 田	普通畑	樹園地	計
阿寒郡鶴居村	0	2,223	0	2,223	0	2,223	0	2,223

過 年 度 調 査 面 積				本 年 度 調 査 面 積			
水 田	普通畑	樹園地	計	水 田	普通畑	樹園地	計
0	0	0	0	0	2,223	0	2,223

次 年 度 調 査 面 積				備 考
水 田	普通畑	樹園地	計	
0	0	0	0	完 了

2) 気 候

本地域は北海道東部に位置し釧路原野に面した地域であり、この地域は北海道でも最も気象条件に恵まれていない地域に属する。特に春先から初夏にかけ太平洋岸に濃霧が発生するためその影響により気温が低くなり、一般作物の初期成育に被害を与えるが、夏期後半から秋までは好天の日が続き気温も周囲が山に囲まれているため比較的高温となり、降水量も少ない。また冬期間は降雪が少ないため土壌凍結が甚しく牧草根が切断され被害を与えている。

次に最寄の気象観測値として鶴居観測所のデータをあげる。

項 目		月 別							
		1	2	3	4	5	6	7	
気 温 (℃)	平 均	-9.5	-8.7	-2.9	4.2	9.6	13.5	18.1	
	最 高 平 均	-1.6	-0.2	3.7	10.5	16.7	19.7	23.1	
	最 低 平 均	-17.3	-17.1	-9.4	-2.2	2.4	7.3	13.1	
月 降 水 量 (mm)		46	37	70	71	109	92	106	
日 最 大 降 水 量 (mm)		54	60	117	87	106	148	96	
最 深 積 雪 (cm)		97	140	157	107	3	-	-	
霧 日 数 (日)※		2.7	3.4	5.1	8.8	12.6	16.8	18.6	
日 照 日 数 (時)※		179.2	181.0	205.5	197.5	178.8	139.8	125.0	

霜 初霜 9月26日, 終霜 6月 1日

雪 初雪 11月10日, 晩雪 4月28日

3) 土壌条件

(1) 地 形

本地域は地形的に2つに大別することができる。

(i) 太平洋に流入する河川に沿って発達した平坦な低湿地地帯

通称釧路原野と称され、雪裡川、幌呂川および久著呂川の流域に沿って形成された低位泥炭地および高位泥炭地で、大部分は表面停滞水状態を呈しているため耕地としては利用されていないのが現状である。

(ii) 標高40～200mの丘陵地、台地

本地域の農耕地の大部分を占め、主として雌阿寒岳、雄阿寒岳および摩周岳等の火山灰が累積した軽しような腐植質火山灰土壌よりなる段丘および丘陵地で、一部では急傾斜地も耕地に利用されている。

(2) 地 質

本地域は地質的にも、北部の丘陵地、南部の釧路低地に大きく二つに分かれている。丘陵地帯はおおよそ150m～400mの標高を有し、全般に北西から南東に向って低くなっている。

この丘陵を構成する地質は阿寒、屈斜路カルデラ形成時の噴出物、主に軽石、火山灰、あるいは熔結凝灰岩等の火山噴出物を基盤とし、その上を雌阿寒岳、雄阿寒岳、摩周岳等を噴出源とす

鶴居観測所

8	9	10	11	12	全年	統計年数
20.1	15.5	9.0	2.2	-5.0	5.5	20年
24.6	21.3	16.0	8.7	1.9	12.0	〃
15.5	9.7	2.0	-4.4	-11.9	-1.0	〃
11.9	17.7	11.3	6.3	4.7	10.50	〃
6.9	12.6	8.4	5.4	6.0	14.8	
-	-	-	2.5	4.8	-	
19.1	13.0	9.9	3.7	2.7	11.6.4	30年
136.0	155.6	188.3	175.0	173.2	2,035.1	〃

(※ 釧路气象台)

る火山灰が累積した腐植質火山性土壌よりなる。南部の釧路低地帯はほとんど海拔10m以下の極めて平坦な泥炭地で、表面より滞水状態を呈し殆んど耕地として利用できない状態にある。また一部では安山岩の風化による崩積土壌もみられ、その他珉河川に沿い河成沖積地が存在する。

なお本町管内の火山噴出物の種類、命名については一応四種類の新时期火山灰の累積であることが判明したが、その噴出源等については今後、釧路管内の調査が進みしだい判明できると思はれるが、本報告では上より雌阿寒の1a、2a層(Me-1a、2a)、雌阿寒のb層(Me-b)、摩周のf層相当層?(M-f?)、雄阿寒岳噴出物相当層?(O-b?)として一応報告するが、今後この名称については変更がありうる。

(3) 侵蝕状況

本地域の農耕地の大部分が軽しうな腐植質火山性土壌であるが、栽培作物が牧草のため水蝕、風蝕いづれもあまりみられない。

(4) 交通状況

本地域の中央部に道々釧路～弟子屈線が通っており、また村道もおおむね砂利敷が十分で交通便は左程不便ではない。

4) 土地利用及び営農状況

a) 経営面積(1戸当平均ha)

総面積	田	普通畑	樹園地	牧草地
6.8	-	1.3	-	5.5

(昭和43年度)

b) 経営規模別農家数

農家数	0.1ha ~1.0ha	1.0ha ~3.0ha	3.0ha ~5.0ha	5.0ha ~10.0ha	10.0ha ~20.0ha	20.0ha以上
389戸	26	36	66	128	114	19

(昭和43年度)

c) 主要農作物作付面積(ha)

牧草類	青刈デントコーン	ルタバカ	えん麦	馬鈴薯	家畜ビート	その他
2,828	90	83	69	33	12	171

(昭和43年度)

d) 家畜の種類及び頭数

項目 \ 種類	乳牛	役肉	馬	豚	めん羊	鶏
飼育戸数	302	92	228	7	5	116
飼育頭数	3,888	521	639	10	10	10,113
1戸当飼育頭数	12.9	5.7	2.8	1.4	2.0	87.2

(昭和43年度)

e) 農業機械所有台数

トラクター 36台

耕耘機 12台

(昭和43年度)

f) 施肥標準および目標収量 (kg/10a)

作物	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	収量	備考
牧草(基肥)	4.0	10.0	12.0	2,000	4,000	開墾地
牧草(追肥)	6.0	6.0	14.0	2,000	4,000	2年目以降採草地
えん麦	3.5	6.0	4.5	1,000	200	
てん菜	10.0	18.0	10.0	2,500	3,000	
馬鈴薯	8.0	10.0	9.0	2,000	2,500	
大豆	1.3	12.0	5.0	1,000	180	

昭和42年

北海道施肥標準(農務部)

当村は釧路管内の西部に位置し、乳牛を主体とする主畜経営が営まれている。一般に耕地面積が広く北海道酪農の代表的地帯である。また当村は戦後開拓適地として農耕地に開発されたもので、最近に至り農業近代化政策に伴い、大規模草地造成や国営、道営により開拓パイロット事業等が実施され成果を上げている。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一覧及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

(畑)

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層・砂 礫層を混 在する砂層	酸化 沈積物	土性		母材	堆積様式
					表土	次層		
支雪裡	YR/YR	表層 腐植層	なし	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(礫質)	風積(火山性) 洪積
支雪裡南	YR/YR	表層多 腐植層	あり	"	"	"	"	"
中雪裡南	YR/YR	全層 腐植層	"	"	"	粘質	"	"
中雪裡東	YR/YR	全層多 腐植層	"	"	"	壤質	"	"
新幌呂	YR/YR	"	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(軽石)	風積(火山性) 風積(火山性)
茂幌呂	YR/YR	表層多 腐植層	なし	"	"	粘質	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(火山灰)	" "

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層・砂 礫層を混 在する砂層	酸化 沈積物	土 性		母 材	堆積様式
					表土	次層		
下 雪 裡	YR/YR	全層多 腐植層	あり	なし	壤質	壤質	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(火山灰)	風積(火山性) 風積(火山性)
中久著呂北	YR/YR	表層多 腐植層	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(軽石)	風積(火山性) 水積(河成)
上久著呂	YR/YR	表層 腐植層	"	"	"	"	"	"
中幌呂南	YR/YR	"	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結水成岩(砂)	"
中 雪 裡	YR/YR	"	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結水成岩(礫)	"
中久著呂中央	YR/YR	表層腐植 層なし	なし	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(火山灰)	"
中久著呂	YR/YR	"	あり	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 非固結火成岩(軽石)	"
中久著呂南	YR/YR	表層多 腐植層	"	"	"	"	非固結火成岩(火山灰) 固結火成岩(安山岩)	風積(火山性) 崩 積
下久著呂南	YR/YR	表層 腐植層	なし	あり	粘質	粘質	非固結火成岩(火山灰) 低位泥炭(ヨシ)	風積(火山性) 集積(ヨシ)
中 幌 呂	YR/YR	表層多 腐植層	"	なし	壤質	壤質	"	"
音 根 内	YR/YR	全層 多腐植	"	"	粘質	粘質	高位泥炭(ミズゴケ) 高位泥炭(ミズゴケ)	集積(ミズゴケ) 集積(ミズゴケ)
ツルハシナイ	YR/YR	"	"	"	壤質	-	低位泥炭(ヨシ) 低位泥炭(ヨシ)	集積(ヨシ) 集積(ヨシ)

(2) 土壌区一覧

(畑)

土 壤 区 分	簡略分級式	面 積 (ha)	備 考
支 雪 裡 - 支 雪 裡	llfnlls	190	
支雪裡南 - 支雪裡南	llfllns	100	
中雪裡南 - 中雪裡南	llflltn	395	
中雪裡東 - 中雪裡東	lltflldns	215	
新幌呂 - 新幌呂	llflldns	315	
茂幌呂 - 茂幌呂	llfllns	170	
下 雪 裡 - 下 雪 裡	llnlls	400	

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
中久著呂北-中久著呂北	llflldns	140	
上久著呂-上久著呂	llfnllds	50	
中幌呂南-中幌呂南	llflltdn	97	
中 雪 裡-中 雪 裡	lldfna	35	
中久著呂中央-中久著呂中央	llfna	2	
中久著呂-中久著呂	lldwfna	70	
中久著呂南-中久著呂南	llflldns	26	
下久著呂南-下久著呂南	llwllalfn	15	
中 幌 呂-中 幌 呂	llwlltfna	3	
音 根 内-音 根 内	llwllaltfn	0	未開発地域
シルハシナイ-シルハシナイ	llwlltallfn	0	"

2) 土壤統別説明

畑

支 雪 裡 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12～17cmで腐植含量8～10%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度17～19で疎～中。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ8～12cmで腐植含量7～9%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度12～14で疎。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ12～13cmで腐植含量10～13%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～2である。1cm内外の不朽軽石あり。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度14～16で疎。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ10～15cmで腐植含量4～6%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに2～4である。0.5～3cmの不朽軽石含む。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度15～17で疎。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦漸変である。Me-b層。

第5層は厚さ13～18cmで腐植含量4～6%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度17～19で疎～中。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層？。

第6層は厚さ10～15cmで腐植含量2～3%、土性はSLである。色は10YRで明度3～5、彩度5～7である。0.2～1cmの軽石富む。単粒状。孔隙細孔含む。ち密度20～22で中。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層？

第7層は82cm以下で腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度4～6、彩度7～8である。礫なし。発達中程度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度19～21で中。PH(H₂O)5.8前後。ローム層。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村支雪裡 (試抗10)

第1層	0～15cm	腐植に富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔あり。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	15～25cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度13で疎。PH(H ₂ O)5.7。

		調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1 a、2 a層。
第3層	25~39cm	腐植に頗る富む。黒色(10YR1/1)のL。1cm前後の不朽軽石あり。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第4層	39~53cm	腐植に富む。黄褐(10YR3/3)のSL。0.5~3cm前後の不朽軽石含む。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。Me-b層。
第5層	53~68cm	腐植に富む。黄褐(10YR4/4)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第6層	68~82cm	腐植を含む。黄褐(10YR4/6)のSL。0.2~1cm内外の軽石に富む。単粒状。細孔含む。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第7層	82cm~	腐植を欠く。黄褐(10YR5/8)のL。礫なし。発達中程度の塊状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り潤。ローム層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~15	8.2	-	16.9	32.9	39.0	11.3	L
2	15~25							
3	25~39	9.2	-	18.8	34.9	34.0	12.3	L
4	39~53	8.0	-	25.8	43.3	27.7	3.2	SL
5	53~68	10.2	-	32.4	39.0	23.4	5.2	SL
6	68~82	5.2	-	49.7	33.5	13.8	3.0	SL
7	82~	8.1	-	19.1	38.9	30.8	11.1	L

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	-	-	5.49	0.42	13	9.2	5.7	4.9
2								
3	-	-	7.17	0.50	14	11.9	5.6	4.7
4	-	-	3.34	0.24	14	5.6	5.7	4.9
5	-	-	3.29	0.22	15	5.5	5.7	5.0
6	-	-	1.29	0.07	18	2.2	5.5	4.9
7	-	-	-	-	-	-	5.8	4.8

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容 容量 me/100g	置換性塩素 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.3	19.9	5.7	0.9	0.2	28.6	2,091	1.3
2								
3	0.4	30.1	6.3	0.5	0.4	20.9	2,310	1.0
4	0.3	20.1	2.8	0.5	0.4	13.9	2,141	1.0
5	0.1	14.8	2.5	0.3	0.4	16.9	2,195	0.7
6	0.1	6.9	0.5	0.2	0.2	7.2	1,473	0.7
7	0.3	14.0	4.8	0.4	1.4	34.3	1,573	1.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として支雪裡南統、中雪裡南統、下雪裡統、中雪裡統があるが、支雪裡南統とは腐植層序、礫層の有無が異り、中雪裡南統とは腐植層序礫層の有無が異なる。また下雪裡統とは腐植層序、礫層の有無、母材が異なる、中雪裡統とは母材、堆積様式が異りそれぞれ本統と区別することが出来る。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草、ビートが栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項

炭カル、燐等の土壌改良資材の増施。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村支雪裡

調査及び記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
支雪裡-支雪裡	Ⅲfnlls

② 土壌区別説明

支雪裡統-支雪裡区

示性分級式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効土	(表表	(透保湿	(保固土	(置	(有微酸	(有物	(增地	(自傾人	(侵耐耐
産	土土	表土の	(然	層の	換" "	効	害理	(冠す	(然斜為	(水風
力	の層	のの	水水潤	塩の	石苦加	量	害質	(水の	(のの	(蝕蝕
可	の礫	の粘上	肥肥定	基塩の	灰土里	要	障	(危危	(傾方	(蝕蝕
能	の厚	土着の	沃	状豊	含" "	" "	害	(險險	(傾方	(蝕蝕
性	深	性性	度	力力態	量	素度	無性	(度度	(斜向斜	(度性性
等	さ	易	度	否	性	性	斜	(度度	(蝕蝕	(度性性
級	t d s p	w	f	n	i	a	s	e		
Ⅲ	I I I I	1 1 1	I 1 1 1	Ⅲ 2 4 3	Ⅲ 3 2 2 3 1 2	I 1 1 I	1 1 1	Ⅱ 2 - -	I 1 1 2	
簡略分級式	Ⅲfnlls									

A 土壤区の特徴

この土壤区は支雪裡統に属する。表土の厚さは40cm前後で厚い。有効土層は1m内外で深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力大、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は塩基、磷酸が一般に少なく養分状態は少である。反応は弱酸性である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。一部は山林。

C 地力保全上の問題点

極めて養分状態が不良で石灰、熔燐等の土壤改良資材の増施に努め、自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村支雪裡

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

支 雪 裡 南 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ8~12cmで腐植含量11~13%、土性はLである、色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度20~22で中。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦判然である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5~10cmで腐植含量11~13%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度19~21で中。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ7~11cmで腐植含量19~21%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~2である。礫なし、発達中度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は4~6cmで腐植含量7~9%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第5層は厚さ15~20cmで腐植含量4~6%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。1~3cm程度の未風化軽石含む。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度20~22で中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第6層は厚さ10~15cmで腐植含量5~7%、土性はSLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。0.2~0.5cm程度の未風化軽石含む。発達中度の粒状構造。孔隙細孔あり、小孔あり。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第7層は厚さ25~30cmで腐植を欠く、土性はLS細土である。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。0.2~0.5cm程度の未風化軽石含む。単粒状構造。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第8層は90cm以下で腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度4~6、彩度6~8である。0.5~1.0cm程度の軽石含むローム層。発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む、小孔含む。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.6前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村支雪裡 (試坑7)

第 1 層	0~10cm	腐植に頗る富む、灰褐(10YR3/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-1a、2a層。
第 2 層	10~18cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第 3 層	18~27cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。細孔あり。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 4 層	27~32cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/3)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。細孔含む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 5 層	32~49cm	腐植含む、黄褐(10YR4/4)のSL。1~3cm程度の未風化軽石含む。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 6 層	49~62cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のSL。0.2~0.5cm程度の未風化軽石含む。発達中度の粒状構造。細孔あり、小孔あり。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第 7 層	62~90cm	腐植を欠く、黄褐(10YR4/6)のLS細土。0.2~0.5cm程度の未風化軽石含む。単粒状。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第 8 層	90cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/8)のL。0.5~1.0cm程度の軽石含む。発達中度の粒状構造。細孔含む、小孔含む。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。O-μ層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~10	} 6.9	-	5.8	43.3	41.6	9.3	L
2	10~18							
3	18~27	} 11.2	-	15.0	37.9	35.1	12.1	L
4	27~32							
5	32~49	8.4	-	28.9	45.4	23.1	2.5	SL
6	49~62	11.2	-	35.9	39.1	10.7	14.3	SL
7	62~90	6.8	-	66.5	19.9	10.5	3.1	LS
8	90~	9.4	-	23.9	38.5	29.7	7.9	L

層位	現地容積量 g	真比重	全炭素	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	81.3	2.23	} 7.54	0.53	14	12.6	5.2	4.5
2	-	-						
3	55.9	2.30	} 12.34	0.69	18	20.6	5.5	4.6
4	-	-						
5	71.8	2.43	2.96	0.19	15	4.9	5.6	4.8
6	-	-	3.93	0.26	15	6.6	5.4	4.8
7	-	-	-	-	-	-	5.7	5.1
8	-	-	-	-	-	-	5.6	5.1

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	} 1.3	28.0	9.7	0.3	0.6	34.6	1.761	2.0
2								
3	} 1.0	44.5	12.2	1.2	0.7	27.4	2.502	2.0
4								
5	0.6	13.4	3.0	0.2	0.2	22.4	1.987	2.0
6	0.6	21.2	3.0	0.4	0.0	14.1	2.272	1.8
7	0.4	7.6	1.2	0.1	0.0	15.8	1.455	2.0
8	0.4	13.6	3.1	0.3	0.2	22.8	1.919	2.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として支雪裡統、新幌呂統、中雪裡統があるが、支雪裡統とは腐植層序、礫層の有無が異り、新幌呂統とは腐植層序、母材が異り、中雪裡統とは母材、堆積様式が異りそれぞれ本統と区別することができる。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 段丘

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項

石灰、熔燐等の土壌改良資材の増施。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村支雪裡

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区分	簡略分級式
支雪裡南-支雪裡南	III f I I n s

② 土壌区別説明

支雪裡南統-支雪裡南区

示性分級式（畑）

土壌	表土	表土	耕土	土	土	自	養	障	災	傾	侵										
生	効	土	土	(表)	(表)	(表)	(保)	(固)	(土)	(置)	(有)	(微)	(酸)	(有)	(物)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(侵)	(耐)
産	土	土	の	(表)	(表)	(保)	(固)	(土)	(置)	(有)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(物)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(侵)	(耐)
力	の	の	の	(表)	(表)	(保)	(固)	(土)	(置)	(有)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(物)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(侵)	(耐)
可	厚	深	含	(表)	(表)	(保)	(固)	(土)	(置)	(有)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(物)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(侵)	(耐)
能	性	易	性	(表)	(表)	(保)	(固)	(土)	(置)	(有)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(物)	(地)	(自)	(傾)	(入)	(侵)	(耐)
等	t	d	g	P	W	f	n	i	a	S	e										
級	I	I	I	I	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	III																				
	簡略分級式 III f I I n s																				

A 土壌区の特徴

この土壌区は支雪裡南統に属する。表土の厚さは30cm前後で厚い。有効土層は1mで深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は塩基、磷酸が一般に中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

C 地力保全上の問題点

一般に塩基が不均衡になっているので石灰、熔燐等を施用し自然肥沃度の向上、併せて酸性矯正をはかる必要がある。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村支雪裡

記載責任者 上 坂 晶 司 （北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和46年3月31日

中 雪 裡 南 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ14~20cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで明度1~3、彩度1~3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界は平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5~8cmで腐植含量10~12%、土性はOLである。色は10YRで明度1~3、彩度1~2である。礫なし。発達中度の細粒状構造。孔隙小孔富む。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)6.0前後。下層と境界平坦判然である。Me-b層。

第3層は厚さ5~10cmで腐植含量4~6%、土性はLである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙小孔富む。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ10~15cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の細粒状構造。孔隙小孔富む。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦漸変である。M-f層?。

第5層は厚さ8~13cmで腐植含量6~8%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。風化細礫あり。発達弱度の細粒状構造。孔隙小孔富む。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦判然である。M-f層。

第6層は厚さ15~20cmで腐植含量4~6%、土性はSLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。礫なし。発達中度の細粒状構造。孔隙小孔富む。ち密度16~18で疎。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦漸変である。O-b層?。

第7層は厚さ20~30cmで腐植含量1~2%、土性はLSである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。半角風化軽石含む。単粒状。孔隙小孔含む。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦判然である。O-b層?。

第8層は厚さ10~20cmで腐植含量1~2%、土性はSLである。色は10YRで明度4~6、彩度7~8である。礫なし。発達中度の細塊状構造、孔隙小孔あり。ち密度22~24で中。PH(H₂O)6.2前後。ロ-Δ層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 鶴居村中雪裡 (試坑79)

第 1 層	0~16cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第 2 層	16~23cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のCL。礫なし。発達中度の細粒状構造。小孔富む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。Me-b層。
第 3 層	23~30cm	腐植を含む、黄褐(10YR5/6)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。小孔富む。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 4 層	30~43cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の細粒状構造。小孔富む。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。M-f層?。
第 5 層	43~52cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/4)のSL。細礫あり。発達弱度の細粒状構造。小孔富む。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。M-f層?。
第 6 層	52~70cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/4)のSL。礫なし。発達中度の細粒状構造。小孔富む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。O-b層?。
第 7 層	70~95cm	腐植あり、黄褐(10YR5/6)のLS。軽石含む。単粒状。小孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。O-b層?。
第 8 層	95~110cm	腐植あり、黄褐(10YR5/8)のSL。礫なし。発達中度の細塊状構造。小孔あり。ち密度23で中。PH(H ₂ O)6.2。調査時の湿り半乾。ロ-△層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~16	4.5	-	4.5	43.5	39.9	12.1	L
2	16~23	8.1	-	7.5	43.1	28.2	21.3	CL
3	23~30	5.4	-	3.6	48.3	43.2	4.9	L
4	30~43	11.2	-	22.0	36.6	29.7	11.6	L
5	43~52	12.6	-	28.5	42.4	22.4	6.6	SL
6	52~70	10.7	-	35.5	46.4	15.4	2.7	CL
7	70~95	6.7	-	54.9	31.6	11.3	2.2	LS
8	95~110	10.9	-	20.6	58.2	11.8	9.3	SL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	76.1	2.21	6.95	0.50	14	11.6	5.8	4.8
2	72.6	2.40	7.05	0.47	15	11.7	6.0	5.1
3	76.8	2.57	2.80	0.19	15	4.7	6.0	5.2
4	53.7	2.62	6.90	0.42	16	11.5	6.0	5.1
5	-	-	4.58	0.30	15	7.6	6.0	5.2
6	-	-	2.90	0.20	15	4.8	6.0	5.4
7	-	-	0.83	0.09	9	1.4	6.0	5.5
8	-	-	0.72	0.09	8	1.2	6.2	5.4

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.5	18.2	11.5	0.3	0.2	63.2	1,510	tr
2	0.6	23.1	10.8	0.2	0.1	46.7	1,384	2.6
3	0.5	9.3	3.4	0.1	0.1	36.6	2,038	1.5
4	1.3	27.6	10.3	1.1	0.1	37.3	1,757	1.5
5	1.3	23.6	5.7	1.1	0.1	24.1	2,496	1.8
6	0.6	15.5	3.7	0.9	0.1	23.9	2,453	3.0
7	0.6	6.8	1.9	0.1	0.1	27.9	2,163	2.6
8	0.6	12.2	3.7	0.3	0.4	30.3	1,788	4.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として新幌呂統、中雪裡東統、中雪裡統、下雪裡統、ツルハンナイ統があるが、新幌呂統とは腐植層序、母材、表士の厚さ、有効土層の深さが異り、中雪裡東統とは腐植層序、有効土層の深さが異り、下雪裡統とは腐植層序、表士の厚さ、母材が異り、中雪裡統、ツルハンナイ統とは母材、堆積様式が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 平坦地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

炭カル、熔燐等の土壌改良資材の増施。防森林の設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村 中雪裡、下雪裡、茂雪裡、上幌呂、支幌呂、支雪裡、ツルハンナイ。

調査及び記載責任者 後藤計二
上坂晶司 （北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中雪裡南-中雪裡南	III f II t n

② 土壌区別説明

中雪裡南統 - 中雪裡南区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 厚 さ	有 効 土 層 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 硬 さ	土 地 の 乾 湿 性	透 水 性	保 水 性	湿 潤 度	自 然 肥 沃 度	保 肥 力	固 定 力	土 層 の 塩 基 状 態	養 分 置 換 性	石 灰 含 量	苦 土 含 量	加 里 含 量	有 効 燐 酸 量	微 量 元 素	酸 度	障 害 性	(有 害 物 質 の 有 無 性)	物 理 的 障 害 性	増 冠 水 の 危 険 度	地 す べ り の 危 険 度	傾 斜 角	自 然 傾 斜	人 為 傾 斜	傾 斜 角	侵 蝕 度	耐 風 蝕 性	耐 水 蝕 性		
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	2	3	3	Ⅱ	1	3	2	3	1	2	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	1	Ⅰ	1	—	—	Ⅰ	1	1	2
簡略分級式			Ⅲ f			Ⅱ t n																											

A 土壤区の特徴

この土壤区は中雪裡南統に属する。表土の厚さは20cm前後でやや厚い。有効土層は1m内外で深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、燐酸は中庸で弱酸性を呈し養分状態は中である。

B 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

塩基状態が不均衡になつているので、石灰、苦土、加里などの少ない塩基の補給と燐酸の増施が必要である。防霧林の設置も必要である。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村 中雪裡、下雪裡、茂雪裡、上幌呂、支幌呂、支雪裡、ツルハシナイ

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)
上 坂 晶 司

日 付 昭和46年3月31日

中 雪 裡 東 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ8~12cmで腐植含量16~18%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度22~24で中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦漸変である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ2~4cmで腐植含量16~18%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度19~21で中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界波状明瞭である。Me-b層。

第3層は厚さ4~6cmで腐植含量7~9%、土性はLである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。礫なし。均質連結状。孔隙細孔あり。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界波状明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ25~30cmで腐植含量18~20%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~2である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度19~21で中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦判然である。M-f層?。

第5層は厚さ4~6cmで腐植含量7~9%、土性はSLである。色は10YRで明度3~5、彩度2~4である。1cm前後の軽石あり。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界波状明瞭である。M-f層?。

第6層は厚さ20~25cmで腐植含量9~11%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の細粒状構造。孔隙細孔あり、小孔あり。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦判然である。O-b層?。

第7層は厚さ20~30cmで腐植含量2~3%、土性はSである。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。5mm程度の軽石含む。単粒状。孔隙なし。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦判然である。O~b層?。

第8層は100cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4~6、彩度7~8である。5mm程度の軽石含む。発達中度の塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度23~25で中~密。PH(H₂O)5.9前後。R-ム層。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村中雪裡 (試拵33)

第 1 層	0~10cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度23で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。Me-1a、2a層。
第 2 層	10~13cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Me-b層。
第 3 層	13~18cm	腐植に富む、黄褐(10YR5/6)のL。礫なし。均質連結状。細孔あり。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Me-b層。
第 4 層	18~45cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のL。礫なし。発達中度の塊状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦判然。M-f層?。
第 5 層	45~50cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/3)のSL。1cm前後の軽石あり。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。M-f層。
第 6 層	50~72cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のSL。礫なし。発達中度の細粒状構造。細孔あり、小孔あり。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦判然。O-b層?。
第 7 層	72~100cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/6)のS。5mm程度の軽石含む。単粒状。孔隙なし。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦判然。O-b層?。
第 8 層	100cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/8)のSL。5mm程度の軽石含む。発達中度の塊状構造。細孔富む。ち密度24で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半湿。R-μ層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~10	} 8.3	-	9.1	46.5	36.2	8.2	L
2	10~13							
3	13~18	6.3	-	5.2	50.8	38.3	5.8	L
4	18~45	11.1	-	20.5	32.9	33.6	13.1	L
5	45~50	10.5	-	26.5	43.7	25.7	4.1	SL
6	50~72	9.6	-	36.8	37.1	21.3	4.7	SL
7	72~100	5.1	-	75.4	15.7	6.9	2.0	S
8	100~	4.6	-	56.6	23.0	16.5	4.0	SL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	79.6	2.26	} 10.24	0.62	17	17.1	5.8	4.8
2								
3	69.1	2.37	4.75	0.30	16	7.9	5.6	4.6
4	48.0	2.49	11.39	0.68	17	19.0	5.6	4.3
5	-	-	4.75	0.31	15	7.9	5.6	4.6
6	-	-	6.15	0.38	16	10.2	5.6	4.7
7	-	-	1.37	0.07	19	2.3	5.7	5.0
8	-	-	-	-	-	-	5.9	4.7

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	} 0.4	35.1	28.0	0.6	0.1	79.8	1,987	2.6
2								
3	0.4	15.7	6.3	0.2	0.0	40.1	2,014	tr
4	1.0	57.1	10.9	1.7	0.1	19.1	1,699	tr
5	0.5	22.1	3.7	0.4	0.1	16.7	2,647	tr
6	0.4	30.5	5.0	0.3	0.1	16.4	2,338	tr
7	0.1	6.5	0.9	0.1	0.1	13.8	2,275	tr
8	0.3	8.6	2.4	0.2	0.5	27.9	1,367	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として中雪裡南統、中雪裡統があるが、中雪裡南統とは腐植層序、表土の厚さ、有効土層の深さが異なる。また中雪裡統とは母材、堆積様式が異りそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（凝灰質）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積、

B 地形 緩傾斜地及び段丘

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。一部山林。

E 農業上の留意事項

表土層が浅いので漸次深耕が必要である。炭カル、燐等の土壌改良資材の増施。防霧林の設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村中雪裡、茂幌呂、支幌呂、ツルハンナイ

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中雪裡東 - 中雪裡東	t f d n s

② 土壌区別説明

中雪裡東統 - 中雪裡東区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	目	養	障	災	傾	侵														
生	効	土	(表	(表	(表	(透	(保	(湿	然	(保	(固	(土	(置	(有	(微	(酸	(有	(物	(增	(地	(自	(傾	(入	(侵	(耐	(耐
産	土	の	土	土	土	地	水	水	肥	肥	定	塩	石	苦	加	磷	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風	
力	の	層	の	の	の	の	水	潤	沃	力	力	基	灰	土	里	酸	害	的	水	べ	の	の	傾	傾	風	
可	の	磔	の	粘	乾	乾	性	性	度	度	力	力	状	含	含	含	害	障	の	危	危	傾	傾	蝕	蝕	
能	厚	深	含	難	土	着	性	性	度	度	力	力	状	含	含	含	害	害	險	險	斜	斜	蝕	蝕		
性	さ	さ	量	易	性	性	湿	性	度	度	力	力	状	含	含	含	害	害	險	險	斜	斜	蝕	蝕		
等																										
級	t	d	g	P		W		f		n						i	a		s				e			
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		
	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ		
	簡略分級式 ⅢtfⅢdns																									

A 土壤区の特徴

この土壤区は中雪裡東統に属する。表土の厚さは10cm前後で薄い。有効土層は72cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で、弱酸性を呈し、養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。一部山林。

C 地力保全土の問題点

表土層が浅いので漸次深耕を行う。炭カル、熔磷等の土壤改良資材の増施を行い自然肥沃度の向上をはかる。防霧林の設置。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村中雪裡、茂幌呂、支幌呂、ツルハシナイ

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

新 幌 呂 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量12～14%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.5～1.8で疎。PH(H₂O) 5.4前後。下層との境界平坦漸変である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量17～19%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～2である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.5～1.8で疎。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第3層は厚さ7～10cmで腐植含量11～13%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～2である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.4～1.5で疎。PH(H₂O) 5.4前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第4層は厚さ12～17cmで腐植含量19～21%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～2である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.7～1.9で疎～中。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。M-f層?。

第5層は厚さ10～15cmで腐植含量7～9%、土性はSLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度1.3～1.5で疎。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。M-f層?。

第6層は厚さ10～15cmで腐植含量7～9%、土性はSLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～3である。2mm～10mm程度の未風化軽石あり。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.3～1.5で疎。PH(H₂O) 5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第7層は厚さ12～17cmで腐植含量5～7%、土性はSLである。色は10YRで明度3～5、彩度5～7である。2mm～10mm程度の未風化軽石あり。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり、小孔あり。ち密度1.9～2.1で中。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第8層は9.3cm以下で腐植含量1～2%、細土の土性がLSの礫層である。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。0.2～3.5cm程度の未風化軽石層。単粒状。ち密度密。PH(H₂O) 6.0前後。O-b層?。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 鶴居村新幌呂 (試抗45)

第 1 層	0~13cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中 度の平板状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.4。 調査時の湿り乾。層界平坦漸変。Me-1a、2a層。
第 2 層	13~29cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のL。礫なし。発達弱 度の塊状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.5。 調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第 3 層	29~38cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のL。礫なし。発達弱 度の細塊状構造。細孔含む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O) 5.4。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第 4 層	38~53cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のL。礫なし。発達弱 度の塊状構造。細孔あり。ち密度18で疎。PH(H ₂ O) 5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。M-f層?。
第 5 層	53~55cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のSL。礫なし。発達弱 度の細塊状構造。細孔富む。ち密度14で疎。PH(H ₂ O)5.5。 調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。M-f層?。
第 6 層	55~78cm	腐植に富む、灰褐(10YR3/2)のSL。2~10mm程度 の未風化軽石あり。発達中程度の細塊状構造。細孔含む。ち密度1 4で疎。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。 O-b層?。
第 7 層	78~93cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/5)のSL。2~10mm程度 の未風化軽石あり。発達中程度の塊状構造。細孔あり、小孔あり、 ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界 平坦明瞭。O-b層?。
第 8 層	93cm~	腐植あり、黄褐(10YR4/4)のLS(細土)。0.2~3.5 cm程度の未風化軽石層。単粒状。ち密度密。PH(H ₂ O)6.0。 調査時の湿り半乾。O-b層?。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重 量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~13	6.1	—	12.8	40.0	35.7	11.5	L
2	13~29	10.0	—	16.5	34.0	36.8	12.5	L
3	29~38	7.5	—	4.7	44.4	44.3	7.5	L
4	38~53	12.5	—	12.4	38.1	37.5	11.9	L
5	53~55	14.4	—	19.0	57.1	22.9	1.0	SL
6	55~78	14.1	—	19.5	55.3	22.1	3.1	SL
7	78~93	8.9	—	34.5	48.5	15.4	1.4	SL
8	93~	3.8	—	79.8	11.8	5.0	3.2	LS

層位	現地容積重 g	全比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐 植	P H	
							H ₂ O	KCl
1	59.9	2.25	7.58	0.53	14	12.8	5.4	4.3
2	50.7	2.50	10.85	0.71	15	18.1	5.5	4.4
3	51.5	2.54	7.55	0.48	15	12.5	5.4	4.5
4	44.5	2.51	12.13	0.73	17	20.2	5.5	4.4
5	49.9	2.58	5.00	0.34	14	8.3	5.5	4.8
6	51.9	2.93	5.33	0.40	13	8.9	5.4	4.9
7	—	—	3.61	0.25	15	6.0	5.5	4.9
8	—	—	0.88	0.09	10	1.5	6.0	5.2

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷 酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.8	21.4	6.5	0.8	0.2	30.8	1,930	2.8
2	0.5	33.9	10.1	0.7	0.1	29.8	1,671	2.0
3	0.5	25.5	5.7	0.5	0.1	22.3	2,341	2.0
4	0.5	43.4	9.5	1.3	0.1	21.9	2,315	2.6
5	0.3	23.3	3.0	0.3	0.1	12.9	2,654	2.6
6	0.3	21.4	3.0	0.3	0.2	14.0	2,595	2.5
7	0.3	12.0	1.8	0.2	0.1	15.0	2,519	2.6
8	0.1	2.5	0.2	0.0	0.0	8.0	2,167	2.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統としては、中雪裡南統があるが腐植層序、母材、表土の厚さ、有効土層の深さが異なる。また中雪裡統とは母材、堆積様式が異りそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／風積（火山性）

B 地形 傾斜地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項

一般に自然肥沃度が低く、養分が不足しているため炭カル、熔燐等の土壌改良資材の増施を要する必要がある。

F 分布

北海道阿寒郡鶴居村新幌呂、茂雪裡

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
新幌呂 - 新幌呂	ll f ll d n s

② 土壌区別説明

新幌呂統 - 新幌呂区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																				
壤	効	土	耘	表	表	透	保	然	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐						
生	土	土	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐				
産	土	土	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
力	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
可	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
能	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
厚	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
性	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
等	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
級	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐					
	t	d	g	P		W		f		n						i	a	S				e									
	I	I	I	I	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	1	2	2	2	2	1	2	I	1	1	I	1	1	1	1	1	2
	簡略分級式 If Idns																														

A 土壤区の特徴

この土壤区は新幌呂統に属する。表土の厚さは50cm前後で厚い。有効土層は95cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、燐酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

C 地力保全上の問題点

一般に塩基が不均衡になつているので石灰、燐酸等の土壤改良資材の施用に努め、自然肥沃度の向上ならびに作土の養分増加をはかることを要する。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村新幌呂、茂雪裡

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

茂 幌 呂 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量12～14%、土性はLである。色は10YRで明度1～3、彩度1～2である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度23～25で中～密。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ15～20cmで腐植含量15～17%、土性はCLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～2である。礫なし。発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度18～20で疎～中。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第3層は厚さ3～5cmで腐植含量12～15%、土性はCLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度13～15で疎。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第4層は厚さ12～17cmで腐植含量17～19%、土性はCLである。色は10YRで明度1～3、彩度1～2である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度16～18で疎。PH(H₂O)5.2前後。下層との境界平坦明瞭である。M-f層？。

第5層は厚さ10～15cmで腐植含量3～5%、土性はSLである。色は10YRで明度3～5、彩度5～7である。2～5mm程度の軽石あり。発達中度の塊状構造及び中度の細粒状構造。孔隙細孔富む。ち密度13～15で疎。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦漸変である。M-f層？。

第6層は60cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4～6、彩度7～8である。2～5mm程度の軽石あり。発達中度の塊状構造。孔隙細孔富む、小孔あり。ち密度14～16で疎。PH(H₂O)5.3前後。M-f層？。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村平和 (試抗59)

第1層	0～12cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のL。礫なし。中度の平板状構造。細孔あり。ち密度24で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
-----	--------	---

第 2 層	12~28cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のCL。礫なし。中度の粒状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第 3 層	28~32cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のCL。礫なし。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度14で疎。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第 4 層	32~47cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のCL。礫なし。中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.2。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。M-f層?。
第 5 層	47~60cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/6)のSL。2~5mm程度の軽石あり。中度の塊状構造及び細粒状構造。細孔富む。ち密度14で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。M-f層?。
第 6 層	60cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/8)のSL。2~5mm程度の軽石あり。中度の塊状構造。細孔富む、小孔あり。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。M-f層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~12	4.3	—	4.2	43.9	37.3	14.0	L
2	12~28	} 8.1	—	8.9	43.3	28.1	19.7	CL
3	28~32							
4	32~47	9.9	—	12.8	36.3	35.7	15.2	CL
5	47~60	7.6	—	18.4	55.6	20.9	5.0	SL
6	60~	8.6	—	22.1	44.3	25.6	8.0	SL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素	全窒素	炭素率	腐植	P H	
							H ₂ O	KCl
1	78.3	2.51	8.14	0.60	13	13.6	5.4	4.5
2	51.6	2.34	} 9.89	0.72	14.	16.5	5.2	4.2
3	-	-						
4	53.9	2.26	11.14	0.79	14	18.6	5.2	4.2
5	-	-	2.46	0.18	13	4.1	5.5	4.6
6	-	-	-	-	-	-	5.6	4.9

	置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度%	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.5	22.9	15.9	0.5	0.2	69.4	1.894	4.9
2	} 1.5	28.1	8.9	0.9	0.2	31.7	1.099	4.9
3								
4	1.3	36.9	9.4	1.1	0.1	25.5	2.276	2.0
5	0.4	15.3	3.3	0.2	0.1	21.6	2.441	2.0
6	0.3	12.2	3.3	0.4	0.5	27.0	2.188	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として下雪裡統、中雪裡統があるが、下雪裡とは腐植層序、礫層の有無が異り、中雪裡統とは母材、堆積様式が異りそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（火山灰）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／風積（火山性）

B 地形 波状性丘陵

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項

一般に塩基、磷酸が不足しているため、炭カル、熔燐等の土壌改良資材の増施をはかり、自然肥沃度の向上併せて作土の養分増加をはかる必要がある。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村平和茂幌呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
茂幌呂 - 茂幌呂	III f I I n s

② 土壤区別説明

茂幌呂統 - 茂幌呂区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵												
生	効	(表	(地	(然	(固	(分	(置	(有	(微	(酸	(有	(物	(增	(地	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐
産	土	表	透	保	固	置	換	効	効	効	効	効	冠	す	傾	斜	為	侵	耐	耐
力	の	土	水	水	肥	土	性	苦	加	燐	害	害	水	べ	然	の	水	風	水	風
可	層	の	水	潤	沃	層	石	土	里	要	害	害	の	の	傾	傾	蝕	蝕	蝕	蝕
能	の	粘	性	性	力	の	灰	土	素	素	無	無	危	危	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
厚	深	性	性	性	力	否	量	量	量	量	性	性	度	度	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
性	易	性	性	性	力	否	量	量	量	量	性	性	度	度	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
等	量	性	性	性	力	否	量	量	量	量	性	性	度	度	斜	斜	蝕	蝕	蝕	蝕
級	t d g P	W	f	n	i	a	S	e												
III	I I I I	1 1 1	I 1 1 1	III 1 3 3	II 1 3 3 2 1 2	I 1 1	I 1 1	II 2 - -	I 1 1 2											
簡略分級式	III f I I n s																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は茂幌呂統に属する。表士の厚さは50cm前後で厚い。有効土層は1m内外で深い。表士の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、燐酸は中庸で強。酸性を呈し養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

C 地力保全上の問題点

一般に石灰、燐酸に乏しく、土壤改良資材を増施して自然肥沃度の向上を計る必要がある。

D 分布 北海道阿寒郡鶴居村平和、茂幌呂

記載責任者 上坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

下 雪 裡 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～30cmで腐植含量8～12%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度19～21で中。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5～10cmで腐植含量13～15%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度18～20で疎～中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界波状明瞭である。Me-b層。

第3層は厚さ7～12cmで腐植含量4～6%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに5～7である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度16～18で疎。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ25～35cmで腐植含量12～15%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり～含む。ち密度14～16で疎。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界は平坦判然である。M-f層?。

第5層は厚さ15～20cmで腐植含量4～6%、土性はSLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度16～18で疎。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界は平坦漸変である。M-f層?。

第6層は93cm以下で腐植を欠く、土性はSである。色は10YRで明度3～5、彩度5～7である。2～3mmの軽石を含む。発達中度の塊状構造。孔隙細孔含む。小孔あり。ち密度20～22で中。PH(H₂O)5.6前後。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村下雪裡 (試抗18)

第1層	0～25cm	腐植に富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
-----	--------	---

第 2 層	25~35cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のSiL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界波状明瞭。Me-b層。
第 3 層	35~44cm	腐植に富む、黄褐(10YR5/5)のSiL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 4 層	44~75cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔あり~含む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り乾。層界平坦判然。M-f層?。
第 5 層	75~93cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。M-f層?。
第 6 層	93cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR4/5)のS。2~3mmの軽石を含む。発達中度の塊状構造。細孔含む小孔あり。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~26	8.6	-	3.5	43.8	39.7	12.9	L
2	26~35	8.5	-	3.3	36.5	52.6	7.6	SiL
3	35~44	6.1	-	2.7	49.6	47.1	0.5	SiL
4	44~75	12.7	-	12.9	36.2	41.3	9.7	L
5	75~93	12.3	-	19.9	56.2	21.5	2.3	SL
6	93~	8.0	-	27.2	54.7	6.9	1.2	S

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	—	—	5.87	0.39	15	9.8	5.5	4.8
2	—	—	8.75	0.58	15	14.6	5.6	4.8
3	—	—	3.10	0.21	14	5.2	5.7	5.0
4	—	—	8.47	0.54	15	14.4	5.4	4.7
5	—	—	3.15	0.24	13	5.3	5.7	5.1
6	—	—	—	—	—	—	5.6	5.1

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.6	21.7	10.2	0.4	0.1	47.0	1,346	1.8
2	0.4	34.9	19.7	0.6	0.1	56.4	2,018	0.7
3	0.4	11.9	5.1	0.6	0.0	42.9	2,038	1.3
4	0.5	43.3	13.3	0.6	0.1	30.7	1,859	1.3
5	0.3	19.1	3.8	0.3	0.1	19.9	2,556	2.0
6	0.8	11.9	2.3	0.9	0.2	19.3	2,441	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として茂幌呂統、中雪裡統、中幌呂南統、ツルハンナイ統があるが、茂幌呂統とは腐植層序、礫層の有無が異り、中雪裡統、中幌呂南統、ツルハンナイ統とは母材、堆積様式が異り、いずれも本統と区別できる。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（火山灰）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／風積（火山性）

B 地形 段丘、緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況 主に牧草、ビート等が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項 炭カル、燐燐等の土壌改良資材の増施。防霧林の設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村下雪裡、下幌呂、中幌呂、下久著呂産、下久著呂北

調査及び記載責任者 後 藤 計 二
上 坂 晶 司
(北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
下雪裡 - 下雪裡	Ⅲ n Ⅱ S

② 土壤区別説明

下雪裡統 - 下雪裡区

示 性 分 級 式 (畑)

	表有表耕	土	目	養	障	災	傾	侵		
土壤	効土	(表土)	(透地)	(保固)	(置換)	(有微酸)	(增地)	(自傾)	(入為)	(耐耐)
産土	土の	(表土)	(保然)	(固層)	(石灰)	(有害)	(冠す)	(然斜)	(為傾)	(水風)
力	の層	(表土)	(潤肥)	(定基)	(苦里)	(物理)	(水の)	(の傾)	(傾)	(蝕蝕)
可	の隙	(粘土)	(沃)	(状)	(含)	(害質)	(危險)	(方)	(斜)	(蝕蝕)
能	厚深	(着性)	(性)	(力)	(量)	(有替)	(度)	(斜)	(向)	(度性)
性		(性)	(性)	(態)	(素)	(無)	(度)	(向)	(斜)	(性)
等	さ	易	度	否	性	性	斜	蝕		
級	t d g P	W	f	n	i	a	S	e		
Ⅲ	I I I I	I I I I	I I I I	I I 2 2	Ⅲ 2 3 3 3	1 2	I 1 1	I 1 1	Ⅱ 2 - -	I 1 1 2
簡略分級式	Ⅲ n Ⅱ S									

A 土壤区の特徴

この土壤区は下雪裡統に属する。表土の厚さは35cm前後で厚い。有効土層は1m内外で深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力小、土層の塩基含量やや不良で自然肥沃度は高い。作土は塩基、磷酸が一般に少なく強酸性を呈し、養分状態は少である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

主に牧草、ビート等が栽培されているが、一部では山林も見られる。

C 地力保全上の問題点

極めて塩基が不足であり、石灰、苦土、加里、磷酸の増施が必要である。

防霧林の設置も忘れてはならない。

D 分布

北海道阿寒郡鶴居村下雪裡、下幌呂、中幌呂、下久著呂南、下久著呂北

記載責任者 後 藤 計 二、上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

中 久 著 呂 北 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～30cmで腐植含量12～15%。土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度18～20で疎～中。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5～10cmで腐植含量7～10%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり、ち密度20～23で中。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ10～20cmで腐植含量12～15%、土性はLである。色は10YRで明度2～4、彩度1～3である。不朽細礫を含む。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度16～19で疎～中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層？。

第4層は厚さ10～15cmで腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度4～6、彩度5～7である。不朽軽石を含む。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度21～23で中。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦判然である。O-b層？。

第5層は58cm以下で1～5cmの未風化半角軽石の礫層である。水積。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村中久著呂 (試抗4)

第1層	0～25cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔あり。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層
第2層	25～32cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/4)のSiL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔あり。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。

第 3 層	32~45cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR3/1)のL。不朽軽石を含む。発達弱度の細粒状構造。細孔含む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第 4 層	46~58cm	腐植を欠く、黄褐(10YR5/6)のSL。不朽軽石含む。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。O-b層?。
第 5 層	58cm~	1~5cmの未風化半角軽石層。水積。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成%				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~25	7.0	-	9.9	39.1	37.3	13.7	L
2	25~32	8.5	-	1.2	48.4	46.7	3.7	SiL
3	32~46	11.8	-	19.7	35.6	32.9	11.8	L
4	46~58	9.3	-	30.3	45.7	21.6	2.4	SL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素	全窒素 %	炭素率	腐植 %	PH	
							H ₂ O	KCl
1	82.0	2.33	7.80	0.48	1.6	13.0	5.4	4.6
2	-	-	5.42	0.29	1.9	9.0	5.7	4.8
3	-	-	7.15	0.42	1.7	11.9	5.6	4.7
4	-	-	-	-	-	-	5.9	5.2

層位	置換酸度 Y _i	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 me/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.8	21.6	7.5	1.3	0.3	34.7	1.604	1.8
2	0.4	16.7	3.6	0.1	0.3	21.6	2.035	1.5
3	0.4	29.1	5.1	0.6	0.4	17.5	2.406	1.5
4	0.1	7.4	1.3	0.1	0.4	17.6	1.853	1.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、中久著呂南統、中久著呂統、中久著呂中央統があるが母材、堆積様式および有効土層の深さが異なり本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 塵積（火山灰）／水積（河成）

B 地形 段丘および緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050 mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されているか、一部では山林も見うけられる。

E 農業上の留意事項

石灰、燐酸が少ないので炭カル、燐燐等の増施が必要である。

F 分布 北海道阿寒郡釧居村中久著呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

① 土壌区一覧

土 壌 区 分	簡 略 分 級 式
中久著呂北-中久著呂北	f d n S

② 土壌区別説明

中久著呂北統 - 中久著呂北区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	有 効	表 土	表 土	表 土	地	透 水	保 水	湿 潤	然 肥	保 肥	固 定	土 層	分 置	置 換	性	苦 土	加 里	有 効	微 量	酸 要	害	有 害	物 理	災 害	增 冠	地 す	傾 斜	自 然	傾 斜	人 為	傾 斜	侵 蝕	耐 風	耐 水			
生 産	土 層	の 厚	の 深	の 難	の 着	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	の 乾	
力 可 能 性 等	厚 深	含 難	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易	性 易
級	t	d	g	P		W				f			n								i		a		S									e				
	III	I	II	I	I	I	I	I	I	III	I	I	3	3	II	2	1	1	3	1	2	I	1	1	I	1	1	II	2	-	-	I	1	1	1			
	簡略分級式 III f II d n S																																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は中久著呂北統に属する。表土の厚さは25cm前後で厚い。有効土層は58cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力中で土層の塩基状態は不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、燐酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草栽培、一部山林

C 地力保全上の問題点

石灰、燐などを施用して、酸性矯正並びに塩基増施をはかり自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10～15cmで腐植含量8～10%、土性はLである。色は10YRで明度1～3、彩度2～4である。礫なし。発達強度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.4～1.6で疎。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ3～5cmで腐植含量8～10%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1～3である。礫なし。発達強度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.7～1.9で疎～中。PH(H₂O) 5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第3層は厚さ5～7cmで腐植含量7～9%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに2～4である。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.6～1.8で疎。PH(H₂O) 5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ3～5cmで腐植含量7～9%、土性はSLである。色は10YRで明度2～4、彩度3～5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.6～1.8で疎。PH(H₂O) 5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第5層は厚さ1.3～1.8cmで腐植含量5～7%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3～5である。未風化軽石含む。発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.4～1.6で疎。PH(H₂O) 5.9前後。下層との境界平坦判然である。O-b層?。

第6層は厚さ2.0～2.5cmで腐植を欠く、土性はSL(細土)である。色は10YRで明度3～5、彩度2～4である。未風化軽石富む。発達中度の細粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.8～2.0で疎～中、PH(H₂O) 6.3前後。下層との境界平坦漸変である。O-b層?。

第7層は厚さ1.7～2.2cmで腐植を欠く、土性はSL(細土)である。色は10YRで明度3～5、彩度1～3である。未風化軽石礫層。単粒状。孔隙なし。ち密度2.3～2.5で中～密。PH(H₂O) 6.3前後。下層との境界平坦明瞭である。水積。

第8層は8.5cm以下で腐植を欠く、土性はSL(細土)である。色は10YRで明度4～6、彩度3～5である。未風化軽石層(水積)。単粒状。孔隙なし。ち密度2.4～2.6で中～密。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村上久著呂 (試抗1)

第 1 層	0~13cm	腐植に富む、黄褐(10YR2/3)のL。礫なし。発達強度の平板状構造。細孔あり。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第 2 層	13~17cm	腐植に富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達強度の平板状構造。細孔あり。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 3 層	17~23cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/3)のSL。礫なし。発達弱度の平板状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-b層。
第 4 層	23~27cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のSL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第 5 層	27~42cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/4)のSL。未風化軽石含む。発達中度の粒状構造。細孔含む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り乾。層界平坦判然。O-b層?。
第 6 層	42~65cm	腐植を欠く、黄褐(10YR4/3)のSL。(細土)未風化軽石富む。発達中度の細粒状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)6.3。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。O-b層?。
第 7 層	65~85cm	腐植を欠く、灰褐(10YR4/2)のSL(細土)。未風化軽石礫層。単粒状。孔隙なし。ち密度24で中。PH(H ₂ O)6.3。調査時の湿り半乾。水積。層界平坦明瞭。
第 8 層	85cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/4)のSL(細土)。未風化軽石礫層(水積)。単粒状。孔隙なし。ち密度25で密。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~13	} 4.4	-	7.8	42.4	38.5	11.2	L
2	13~17							
3	17~23	} 7.1	-	28.4	47.7	13.8	10.1	SL
4	23~27							
5	27~42	10.9	-	24.9	45.5	29.1	0.5	SL
6	42~65	7.3	-	36.5	44.5	18.0	0.9	SL
7	65~85	} 3.3	-	47.5	31.4	20.3	0.8	SL
8	85~93							

層位	現地容積量 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	} -	-	5.37	0.38	14	8.9	5.5	4.6
2								
3	} -	-	4.98	0.34	15	8.3	5.8	4.9
4								
5	-	-	3.43	0.21	16	5.7	5.9	5.3
6	-	-	-	-	-	-	6.3	5.4
7	} -	-	-	-	-	-	6.3	5.4
8								

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	} 1.3	12.5	3.8	0.4	0.1	30.4	1,203	1.5
2								
3	} 0.5	14.1	3.2	0.2	0.1	22.7	2,038	2.0
4								
5	0.3	8.6	1.5	0.4	0.1	17.4	2,136	1.5
6	0.1	9.9	1.1	0.1	0.1	11.1	1,886	1.5
7	} 0.1	1.4	0.5	0.1	0.1	35.7	887	1.5
8								

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては中久著呂北統、中久著呂統があるが、いずれも腐植層序が異り本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 段丘

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

荒廃草地で一部は山林となっている。

E 農業上の留意事項

石灰、苦土、加里等の塩基並びにリン酸が不足しているので炭カル、熔燐等土壌改良資材の増施をはかる必要がある。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村上久著呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

② 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
上久著呂 - 上久著呂	fn ds

② 土壌区別説明

上久著呂統 - 上久著呂区

示 性 分 級 式 (畑)

土	土	自	養	障	災	傾	侵
壤表有表耕	地透保湿然保固土分置	水水潤肥肥定塩基状	否	有(物)害(理)物(質)障(害)無(性)	(增)冠(水)の(危)険(度)	(地)す(べ)り(の)危(険)度	(自)傾(入)斜(為)傾(方)斜(向)斜(度)性(性)
生効土(表土の風乾上の硬さ)	(透) (保) (湿) (然) (保) (固) (土) (分) (置)	(水) (水) (潤) (肥) (肥) (定) (塩) (基) (状)	(否)	(有) (微) (酸) (有) (物) (理) (物) (質) (障) (害) (無) (性)	(增) (冠) (水) (の) (危) (険) (度)	(地) (す) (べ) (り) (の) (危) (険) (度)	(自) (傾) (入) (斜) (為) (傾) (方) (斜) (向) (斜) (度) (性) (性)
産土の層の含難性	の(水) (水) (潤) (肥) (肥) (定) (塩) (基) (状)	乾(性) (性) (性) (度)	否	性	性	斜	蝕
力厚深	の(水) (水) (潤) (肥) (肥) (定) (塩) (基) (状)	性(性) (性) (性) (度)	否	性	性	斜	蝕
能厚深	の(水) (水) (潤) (肥) (肥) (定) (塩) (基) (状)	性(性) (性) (性) (度)	否	性	性	斜	蝕
等	の(水) (水) (潤) (肥) (肥) (定) (塩) (基) (状)	性(性) (性) (性) (度)	否	性	性	斜	蝕
級	W	f	n	i	a	S	e
Ⅲ I Ⅱ I I 1 1 1	I 1 1 1	Ⅲ 2 2 3	Ⅲ 2 3 3 3 1 2	I 1 1	I 1 1	Ⅱ 2 --	I 1 1 1
簡略分級式 Ⅲ f n Ⅱ d S							

A 土壤区の特徴

この土壤区は上久著呂統に属する。表土の厚さは30cm前後で厚い。有効土層は65cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は塩基、燐酸が一般に少なく、また強酸性を呈し養分状態は少である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

荒廃草地及び山林。

C 地力保全上の問題点

一般に石灰、燐酸に乏しく炭カル、熔燐等を増施して自然肥沃度の向上をはかる必要がある。

D 分布

北海道阿寒郡鶴居村上久著呂

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

中 幌 呂 南 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ5~10cmで腐植含量9~11%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度2.5~2.7で密。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5~10cmで腐植含量9~11%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度2.1~2.3で中。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ20~30cmで腐植含量4~6%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.8~2.0で疎~中。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦漸変である。水積火山灰層。

第4層は厚さ30~40cmで腐植含量1~3%、土性はLSである。色は10YRで明度5~7、彩度4~6である。礫なし。発達弱度の細塊状構増。孔隙細孔含む。ち密度1.7~1.9で疎~中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦漸変である。水積火山灰層。

第5層は75cm以下で腐植を欠く、土性はSL(触感)である。色は10YRで明度4~6、彩度3~5である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度2.1~2.3で中。水積火山灰層。本層以下は川砂利になっている。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村中幌呂下 (試抗68)

第1層	0~8cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度2.6で密。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	8~16cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔あり。ち密度2.2で中。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。

第 3 層	16~40cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/4)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。水積火山灰層。
第 4 層	40~75cm	腐植あり、黄褐(10YR6/5)のSL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦漸変。水積火山灰層。
第 5 層	75cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR5/4)のSL(触感)。礫なし。発達中度の塊状構造。小孔あり。ち密度22で中。調査時の湿り半乾。水積火山灰層及び川砂利。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~8	} 7.4	-	7.4	42.9	37.2	12.5	L
2	8~16							
3	16~40	12.6	-	16.7	66.5	14.2	2.5	SL
4	40~75	10.8	-	17.3	73.9	6.1	2.7	LS

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素	炭素率	腐 植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	87.1	2.30	} 6.34	0.48	13	10.6	6.0	5.0
2	56.8	2.50						
3	57.4	2.66	2.96	0.24	12	4.9	6.0	5.3
4	-	-	1.14	0.11	10	1.9	5.6	5.1

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容 量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	} 1.3	19.8	10.7	0.5	0.2	54.0	2.067	3.0
2								
3	0.5	17.3	6.5	0.5	0.1	37.6	7.44	2.3
4	0.6	12.6	3.0	0.7	0.1	23.8	2.345	2.3

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接又は類似する統として下雪裡統、ツルハシナイ統があるが、いずれも母材、堆積様式が異り本統と区別することかできる。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結水成岩（砂）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050 mm

D 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

漸次深耕をはかること。炭カル、燐燐等土壌改良資材の増施。防霧林の設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村中幌呂下

調査及び記載責任者 後藤計二
上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 分	簡 略 分 級 式
中幌呂南 - 中幌呂南	III f I t d n

② 土壌区別説明

中幌呂南統 - 中幌呂南区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕		土		自	養		障	災	傾	侵														
生	効	土	土	(表	(表	(表	透	(保	濕	然	(保	固	(土	分	(置	(((微	(酸	(有	(物	(增	(地	(自	(傾	(人	(侵	(耐	(耐
産	土	土	の	土	土	土	水	水	潤	肥	肥	定	層	の	換	苦	加	態	量	害	害	冠	す	傾	傾	為	水	耐	耐
力	の	腐	の	の	の	の	水	水	沃	沃	力	力	の	塩	性	土	里	加	量	害	害	水	の	の	然	の	蝕	風	蝕
可	の	の	の	の	の	の	性	性	度	度	力	力	状	基	灰	灰	酸	要	性	性	の	危	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	
能	厚	含	含	性	性	性	性	性	度	度	力	力	状	基	灰	灰	酸	要	性	性	の	危	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	
性	等	さ	さ	量	易	湿	湿	湿	度	度	力	力	状	基	灰	灰	酸	要	性	性	の	危	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	
等	級	t	d	g	P		W		f		n								i	a		S							
級	Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ	2	4	2	Ⅱ	1	3	3	2	1	1	Ⅰ	1	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ
簡	略	分	級	式			Ⅱ	f	Ⅱ	t	d	n																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は中幌呂南統に属する。表土の厚さは15cm前後で薄い。有効土層は75cm内外でやや深い。表土の土性は漸質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力大、土層の塩基状態やや不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で反応も弱酸性であり養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草、ビート等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いので漸次深耕をはかる必要がある。塩基が不足しているので石灰、燐等土壌改良資材の増施をはかり、自然肥沃度の向上をはかること。防霧林の設置。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村中幌呂下

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)
上 坂 晶 司

日 付 昭和46年3月31日

中 雪 裡 統

(1) 土壌統の細分

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17~22cmで腐植含量10~12%、土性はLである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。隙なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ3~6cmで腐植含量9~11%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。隙なし。発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第3層は厚さ5~10cmで腐植含量5~7%、土性はLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。隙なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔富む。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦判然である。Me-b層。

第4層は厚さ4~8cmで腐植含量8~10%、土性はCLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。隙なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔富む。ち密度14~16で疎。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第5層は厚さ10~15cmで腐植含量3~5%、土性はSLである。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。1~2cm程度の未風化軽石含む。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第6層は厚さ10~15cmで腐植を欠く、土性はS(細土)である。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。川砂利含む。単粒状。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.4前後。下層との境界平坦明瞭である。

第7層は厚さ13~18cmで腐植を欠く。土性はSL(細土)である。色は10YRで明度3~5、彩度3~5である。0.5~3.0cmの未風化な軽石含む。単粒状。ち密度21~23で中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦漸変である。

第8層は80cm以下で腐植を欠く、1~10cmの未風化な円礫層である。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 鶴居村支雪裡 (試抗8)

第1層	0~20cm	腐植に頗る富む、灰褐(10YR3/2)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第2層	20~25cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/2)のL。礫なし。発達中度の粒状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第3層	25~32cm	腐植に富む、黄褐(10YR3/4)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-b層。
第4層	32~38cm	腐植に富む、黒色(10YR2/2)のCL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第5層	38~50cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/6)のSL。1~2cm程度の未風化軽石含む。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第6層	50~64cm	腐植を欠く、黄褐(10YR4/4)のS(細土)。川砂利含む。単粒状。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第7層	64~80cm	腐植を欠く、黄褐(10YR4/6)のSL(細土)。0.5~3.0cm程度の未風化軽石含む。単粒状。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第8層	80cm~	腐植を欠く、1~10cm程度の未風化な円礫層である。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~20	4.9	—	5.5	38.8	41.0	14.7	L
2	20~25	} 8.0	—	10.6	35.5	39.0	14.8	L
3	25~32							
4	32~38	9.0	—	14.8	35.8	32.6	16.7	CL
5	38~50	6.1	—	28.8	39.6	23.8	7.7	SL
6	50~64	4.5	—	75.7	18.7	4.2	1.4	S
7	64~80	4.0	—	52.1	31.5	14.3	2.1	SL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	—	—	6.64	0.54	12	11.1	5.4	4.8
2	}	—	6.14	0.46	13	10.2	5.7	4.7
3								
4	—	—	5.53	0.41	13	9.2	5.3	4.5
5	—	—	2.21	0.16	14	3.7	5.4	4.7
6	—	—	—	—	—	—	5.4	4.8
7	—	—	—	—	—	—	5.6	4.7

層位	置換酸度 Yi	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.6	22.0	12.7	0.3	0.1	57.7	1.460	3.9
2	}	1.3	24.8	7.1	0.2	0.1	28.6	2.102
3								
4	1.3	27.2	6.6	0.4	0.1	24.3	2.253	1.3
5	0.6	13.0	3.2	0.2	0.2	24.6	1.834	1.8
6	0.5	11.9	3.1	0.2	0.9	26.0	5.63	2.0
7	0.5	8.1	2.5	0.2	0.5	30.9	1.198	3.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として中幌呂南統があるが、表土の厚さならびに母材が異り本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結水成岩（礫）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 河川低地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050 mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている、一部は山林。

E 農業上の留意事項

炭カル、燐燐等の土壌改良資材の増施。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村、河川低地一帯

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中雪裡 - 中雪裡	ll d f n a

② 土壌区別説明

中雪裡統一中雪裡区

示 性 分 級 式 (畑)

土	耕	表	有	表	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生	効	土	(表	(表	(表	地	(透	(保	(湿	然	(保	(固	(土	分	(置	(換	(性	(苦	(加	(有	(微	(酸	(有	(物	(增	(地	(目	(傾	(人	(侵	(耐			
産	土	土	土	土	土	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	の	の	石	灰	土	里	加	磷	要	害	害	害	の	危	の	危	傾	斜	為	水	風
力	の	層	の	の	の	乾	性	性	度	度	力	力	状	豊	量	量	量	素	度	度	性	性	性	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	
可	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	量	量	量	素	度	度	性	性	性	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	
能	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	量	量	量	素	度	度	性	性	性	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	
性	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	量	量	量	素	度	度	性	性	性	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	
等	厚	深	含	難	性	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	量	量	量	素	度	度	性	性	性	無	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	
級	t	d	g	P		W		f		n												i	a	S	e									
II	I	II	I	I	1	1	1	1	1	II	1	2	3	II	1	3	3	2	1	2	I	1	1	II	2	1	I	1	-	-	I	1	1	
簡略分級式 II d f n a																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は中雪裡統に属する。表土の厚さは40cm前後で厚い。有効土層は80cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は中である。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。増冠水による危険性は多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

C 地力保全上の問題点

石灰、熔磷等の土壤改良資材を増施し、自然肥沃度の向上併せて作土の養分増加をはかる必要がある。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村河川低地一帯

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

中久著呂中央統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ8~12cmで腐植含量5~7%、土性はLである。色は10YRで明度1~3、彩度2~4である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度2.4~2.6で中~密。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ5~10cmで腐植含量2~3%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度2.1~2.3で中。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層?。

第3層は厚さ8~12cmで腐植含量3~5%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達中度の粒状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.5~1.7で疎。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦明瞭である。

第4層は厚さ60~70cmで腐植含量1~2%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙小孔あり。ち密度1.4~1.6で疎。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦明瞭である。本層は砂の互層である。

第5層は厚さ8~12cmで腐植含量3~5%、土性はL(触感)である。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。礫なし。発達弱度の塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度1.5~1.7で疎。下層との境界平坦明瞭である。水積火山灰層。

第6層は98cm以下で腐植を欠く、土性はSL(触感)である。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度1.7~1.9で疎~中。水積火山灰層。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 鶴居村中久著呂(試坑6)

第1層	0~10cm	腐植に富む、黄褐(10YR2/3)のL。礫なし。発達中度の塊状構造。細孔あり。ち密度2.5で密。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
-----	--------	---

第 2 層	10~17cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/4)のL。礫なし。発達弱度の平板状構造。細孔あり。ち密度22で中。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層?。
第 3 層	17~26cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/3)のL。礫なし。発達中度の粒状構造。小孔あり。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第 4 層	26~88cm	腐植あり、黄褐(10YR6/6)のSiL。礫なし。発達弱度の塊状構造。小孔あり。ち密度15で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第 5 層	88~98cm	腐植を含む、灰褐(10YR3/2)のL(触感)。礫なし。発達弱度の塊状構造。細孔含む。ち密度16で疎。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。水積火山灰層。
第 6 層	98cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR4/4)のSL(触感)。礫なし。発達弱度の粒状構造。細孔あり。ち密度18で疎。調査時の湿り半乾。水積火山灰層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~10	4.4	—	8.6	53.5	24.9	13.0	L
2	10~17	5.9	—	9.4	47.6	30.5	12.5	L
3	17~26	5.8	—	8.5	53.6	33.5	4.4	L
4	26~88	3.3	—	18.0	31.1	50.0	0.9	SiL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	95.6	2.44	3.63	0.33	11	6.1	5.3	4.6
2	—	—	1.68	0.15	11	2.8	5.6	4.7
3	—	—	2.23	0.20	11	3.7	5.9	4.8
4	—	—	0.67	0.06	11	1.1	5.9	4.9

層位	置換率度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐酸 吸収係数	有効能燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.8	19.8	11.7	0.2	0.8	59.1	9.06	8.6
2	0.6	23.5	15.1	0.6	1.5	64.2	1.133	5.5
3	0.4	25.3	17.0	1.2	1.4	67.2	1.028	3.5
4	0.4	12.2	8.0	0.9	1.1	65.6	5.73	6.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては中久著北統があるか母材が異り、また類似する統としては中久著呂統があるか母材が異りそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（火山灰）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されているが、一部では山林になっている。

E 農業上の留意事項

炭カル、燐燐等の土壌改良資材を増施し、自然肥沃度並に作土の養分増加をはかることが必要である。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

記載及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

② 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中久著呂中央-中久著呂中央	llfna

② 土壌区別説明

中久著呂中央統一中久著呂中央区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生	効	土	(表)	(表)	地	透	保	濕	然	保	固	土	分	置	"	"	(有)	(微)	(酸)	(有)	(物)	(增)	(地)	(自)	(傾)	(人)	(侵)	(耐)	(耐)					
産	土	土	耘	土	土	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	の	塩	基	状	否	否	否	害	害	水	の	の	然	斜	為	水	風				
力	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の		
可	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の		
能	厚	深	含	難	土	着	乾	性	性	度	度	力	力	態	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量	量			
性	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等		
級	t	d	g	P		W		f			n									i	a	S												
Ⅱ	I	I	I	I	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	3	1	2	1	2	I	1	1	1	2	1	I	1	-	-	I	1	1	1
簡略分級式												ll f n a																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は中久著呂中央統に属する。表土の厚さは25cmの前後厚い。有効土層は1m内外で深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力中で固定力小、土層の塩基状態は良好で自然肥沃度は中である。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。増冠水の危険性が多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草並に一部山林になっている。

C 地力保全上の問題点

炭カル、熔燐等の土壤改良資材を増施する必要がある。

D 分布

北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和46年3月31日

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ22~27cmで腐植含量3~5%、土性はLである。色は10YRで明度7~8彩度2~4である。礫なし。発達中度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度16~18で疎。

PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ2~4cmで腐植を欠く、土性はL(触感)である。色は10YRで明度7~8、彩度3~5である。礫なし。均質連結状。孔隙細孔あり。ち密度16~18で疎。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ2~4cmで腐植含量4~6%、土性はL(触感)である。色は10YRづ明度2~4、彩度3~5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度17~19で疎~中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。

第4層は厚さ4~6cmで腐植含量5~7%、土性はLである。色は10YRで明度1~3、彩度2~4である。礫なし。発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)5.7前後。下層との境界平坦明瞭である。M-f層?。

第5層は厚さ8~13cmで腐植含量2~4%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達弱度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度16~18で疎。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦明瞭である。M-f層?。

第6層は厚さ13~18cmで腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度3~5、彩度4~6である。礫なし。均質連結状。孔隙なし。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦明瞭である。M-f層?。

第7層は厚さ25~35cmで腐植を欠く、土性はSL(触感)である。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔、小孔あり。ち密度15~17で疎。糸根状の鉄の酸化沈積物あり。下層との境界平坦明瞭である。

第8層は厚さ2~4cmで腐植を欠く、礫層(水積火山灰)である。下層との境界平坦明瞭である。

第9層は93cm以下で腐植を欠く、浮石礫層(水積)である。湧水。

代 表 的 断 面 形 態

(畑)

(所在地) 鶴居村中久著呂 (試抗3)

第 1 層	0~2.4cm	腐植を含む、黄褐(10Y8/3)のL。礫なし。発達中度の平板状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第 2 層	2.4~2.7cm	腐植を欠く、黄褐(10YR8/4)のL(触感)。礫なし。均質連結状。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第 3 層	2.7~3.0cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/4)のL(触感)。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度18で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。
第 4 層	3.0~3.5cm	腐植に富む、黄褐(10YR2/3)のL。礫なし。発達中度の粒状構造。細孔含む。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)5.7。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。M-f層?。
第 5 層	3.5~4.5cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/4)のSL。礫なし。発達弱度の細粒状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。M-f層?。
第 6 層	4.5~6.0cm	腐植を欠く、黄褐(10YR4/5)のL。礫なし。均質連結状。孔隙なし。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。M-f層?。
第 7 層	6.0~9.0cm	腐植を欠く、黄褐(10YR6/6)のSL。(触感)礫なし。発達中度の塊状構造。細孔、小孔あり。ち密度16で疎。鉄の糸根状酸化沈積物あり。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第 8 層	9.0~9.3cm	腐植を欠く、礫層(水積火山灰)。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第 9 層	9.3cm ~	腐植を欠く、浮石礫層(水積)。調査時の湿り潤。湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~24	8.4	-	2.2	45.2	44.9	7.6	L
2	24~27							
3	27~30							
4	30~35	6.3	-	12.7	50.2	32.1	5.0	L
5	35~45	3.9	-	56.0	28.7	13.2	2.1	SL
6	45~60	7.3	-	2.3	60.1	33.4	4.2	L

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	8.45	2.33	2.49	0.18	14	4.2	5.8	4.8
2								
3								
4	-	-	3.99	0.31	13	6.6	5.7	4.7
5	-	-	1.72	0.11	16	2.9	5.8	4.7
6	-	-	-	-	-	-	5.9	4.5

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 me/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.4	8.9	5.0	0.3	0.6	56.2	810	5.3
2								
3								
4	0.6	21.9	9.1	0.9	1.5	41.5	1628	3.0
5	0.8	10.0	3.5	0.5	0.9	35.0	1066	3.0
6	1.9	18.7	7.2	1.1	1.3	38.5	1364	2.6

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統として、中久著呂北統、中久著呂南統、下久著呂南統があるが、中久著呂北統とは腐植層序、中久著呂南統とは母材、堆積様式が異なる。また下久著呂南統とは母材、堆積様式、土性が異りそれぞれ本統と区別することかできる。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／非固結火成岩（軽石）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／水積（河成）

B 地形 河川低平地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

炭カル、熔燐等の土壌改良資材の増施をはかること。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
中久著呂 - 中久著呂	dWfna

② 土壌区別説明

中久著呂統 - 中久著呂区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表有表耕		土		目		養		障	災	傾		侵								
生	効	土	(表土の風乾上の硬さ)	(地透の水)	(保濕)	(然肥)	(保固)	(土層の塩基状態)	(分置換性石灰含量)	(有効態燐酸)	(微酸)	(物理的障害)	(有害物質の有無)	(増冠水の危険度)	(地すべりの危険度)	(自然傾斜)	(人為傾斜)	(侵蝕)	(耐風蝕)	(耐水蝕)		
産力可能厚性等級	の層の含深さ	のの土難量易	(粘着力)	の乾性	水潤度	肥沃度	力力	否	否	要素度	性	性	性	斜	斜	斜	蝕	蝕	蝕	性	性	
	t d g P			W		f		1:		i	a	S	e									
	I I I I I	1 1 1 1		1 1 2	2 2 2	2 2 2		1 3 1	2 1 2	I 1 1	I 1 1	2 1	I 1	- -	I 1 1 1							
	簡略分級式 I I d W f n a																					

A 土壤区の特徴

この土壤区は中久著呂統に属する。表土の厚さは30cm前後で厚い。有効土層は90cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態やや不良で自然肥沃度は中である。作土は一般に塩基、燐酸は中庸であり、反応も弱酸性で養分状態は中である。増冠水の危険度が多少ある。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

塩基が多少不足しているので石灰、燐酸等の施用が必要である。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

記載責任者 上坂晶司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~15cmで腐植含量11~13%、土性はLである。色は10YRで明度2~4、彩度1~3である。礫なし。発達弱度の平板状構造。孔隙細孔あり。ち密度19~21で中。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦判然である。Me-1a、2a層。

第2層は厚さ13~17cmで腐植含量11~13%、土性はLである。色は10YRで明度1~3、彩度1~2である。礫なし。発達弱度の細粒状構造及び発達中度の粒状構造。孔隙細孔含む。ち密度13~15で疎。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ10~15cmで腐植含量6~8%、土性はSiLである。色は10YRで明度、彩度ともに5~7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層?。

第4層は厚さ17~22cmで腐植含量16~18%、土性はLである。色は10YRで明度、彩度ともに1~2である。礫なし。発達中度の細塊状構造。孔隙細孔含む。ち密度12~14で疎。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第5層は厚さ13~18cmで腐植含量4~6%、土性はSLである。色は10YRで明度、彩度ともに3~5である。礫なし。発達中度の細粒状構造。孔隙細孔あり。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)6.1前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第6層は厚さ12~17cmで腐植を欠く、土性はLSである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。礫なし。単粒状。ち密度13~15で疎。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦明瞭である。O-b層?。

第7層は90cm以下で腐植を欠く、土性はSLである。色は10YRで明度5~8、彩度7~8である。3~5cm程度の未風化半角安山岩礫含む。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度23~25で中~密。PH(H₂O)5.5前後。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 鶴居村中久著呂(試抗5)

第1層	0~12cm	腐植に頗る富む、灰褐(10YR3/2)のL。礫なし。発達弱度の平板状構造。細孔あり。ち密度20で中。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り乾。層界平坦判然。Me-1a、2a層。
第2層	12~27cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR2/1)のL。礫なし。発達弱度の細粒状構造及び中度の粒状構造。細孔含む。ち密度14で疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第3層	27~40cm	腐植に富む、黄褐(10YR6/6)のSiL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔含む。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り乾。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層?。
第4層	40~60cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のL。礫なし。発達中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度13で疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第5層	60~75cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/4)のSL。礫なし。発達中度の細粒状構造。細孔あり。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)6.1。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第6層	75~90cm	腐植を欠く、黄褐(10YR5/6)のLS。礫なし。単粒状。ち密度14で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。O-b層?。
第7層	90cm~	腐植を欠く、黄褐(10YR6/8)のSL。3~5cmの未風化安山岩半角礫含む。発達弱度の細塊状構造。ち密度24で中。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~12	} 7.2	-	10.2	38.1	39.5	12.1	L
2	12~27							
3	27~40	8.4	-	3.2	40.0	51.1	5.7	SiL
4	40~60	12.1	-	21.6	36.5	30.1	11.9	L
5	60~75	11.7	-	44.4	34.7	8.4	12.5	SL
6	75~90	4.6	-	59.8	29.7	1.5	9.0	LS
7	90~105	6.6	-	40.0	36.2	19.9	4.0	SL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	-	-	} 7.26	0.55	13	12.1	5.3	4.6
2	-	-						
3	-	-	4.13	0.28	15	6.9	5.5	4.8
4	-	-	10.05	0.53	19	16.8	5.3	4.6
5	-	-	2.73	0.15	18	4.6	6.1	5.3
6	-	-	-	-	-	-	5.9	5.2
7	-	-	-	-	-	-	5.5	4.9

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	} 1.0	21.6	7.9	0.9	0.3	36.6	1,531	2.0
2								
3	0.6	13.2	2.6	0.2	0.2	19.7	1,854	2.6
4	0.8	44.2	7.6	1.1	0.4	17.2	2,624	2.6
5	0.1	11.6	1.4	0.1	0.2	12.1	2,055	2.6
6	0.1	4.4	0.2	0.1	0.1	4.5	1,289	2.6
7	0.3	9.8	2.5	0.2	0.2	25.5	1,624	3.4

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては、中久著呂北統、中久著呂統があるがいずれも母材、堆積様式が異なり本統とそれぞれ区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／固結火成岩（安山岩）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／崩積

B 地形 緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林。

E 農業上の留意事項

炭カル、燐等の土壌改良資材の増施。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
中久著呂南一—中久著呂南	ll f ll d n s

② 土壌区別説明

中久著呂南統 — 中久著呂南区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵															
生	効	土	(表	(表	(表	透	保	湿	然	保	固	(土	(置	(有	微	酸	(有	(物	(增	(地	(目	(傾	(入	(侵	(耐	(耐
産	土	土	土	土	土	水	水	潤	肥	肥	定	層	換	効	効	量	害	理	冠	す	然	斜	為	水	風	
力	の	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	定	の	石	苦	加	磷	害	的	水	の	の	傾	傾	風	風	
可	層	礫	粘	着	乾	性	性	度	度	力	力	塩	灰	土	里	酸	無	障	危	危	傾	傾	蝕	蝕	蝕	
能	厚	含	難	性	性	性	性	度	度	力	力	基	含	含	含	素	性	害	險	險	斜	斜	蝕	蝕	蝕	
性	深	難	性	性	性	性	性	度	度	力	力	状	量	量	量	度	性	性	度	度	斜	斜	蝕	蝕	蝕	
等	さ	量	易	湿	度	否	否	性	性	斜	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	蝕	
級	t	d	g	P	W	f	n	i	a	S	e															
Ⅲ	I	Ⅱ	I	I	1	1	1	1	Ⅲ	1	3	3	Ⅱ	2	2	1	2	1	2	I	1	1	I	1	1	1
簡略分級式													Ⅲ f Ⅱ d n s													

A 土壤区の特徴

この土壤区は中久著呂南統に属する。表土の厚さは30cm前後で厚い。有効土層は90cm内外でやや深い。表土の土性は壤質のため耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力中、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。一部は山林である。

C 地力保全上の問題点

炭カル、熔燐等の土壤改良資材を増施し、自然肥沃度の向上併せて作土の養分増加をはかることが必要である。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村中久著呂

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

下久著呂南統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13~17cmで腐植含量3~5%、土性はSiCLである。色は10YRで明度4~6、彩度1~3である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。鉄の糸根状酸化沈積物あり。孔隙細孔あり。ち密度18~20で疎~中。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界平坦漸変である。

第2層は厚さ13~18cmで腐植含量3~5%、土性はSiCLである。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。礫なし。発達弱度の塊状構造。鉄の糸根状酸化沈積物あり。孔隙細孔含む。ち密度16~18で疎。PH(H₂O)5.8前後。下層との境界波状明瞭である。

第3層は厚さ13~18cmで腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度5~7、彩度1~3である。礫なし。均質連結状。鉄の糸根状酸化沈積物あり。孔隙小孔あり。ち密度24~26で中~密。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界波状明瞭である。Me-1a層。

第4層は厚さ2~4cmで腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。鉄の糸根状酸化沈積物あり。孔隙細孔あり。ち密度15~17で疎。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界波状明瞭である。

第5層は厚さ2~4cmで腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度6~8、彩度1~2である。礫なし。均質連結状。鉄の糸根状酸化沈積物あり。孔隙細孔あり。ち密度20~22で中。PH(H₂O)5.9前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-2a層。

第6層は厚さ12~17cmで腐植含量3~5%、土性はSL(触感)である。色は10YRで明度2~4、彩度3~5である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。斑鉄の集積層。孔隙細孔あり。ち密度15~17で疎。下層との境界平坦明瞭である。

第7層は厚さ2~5cmのヨシ等を主要構成物とする低位泥炭層。色は10YRで明度1~3、彩度1~2である。礫なし。鉄の糸根状酸化沈積物あり。ち密度16~18で疎。下層との境界平坦明瞭である。

第8層は67cm以下でヨシを含む、亜泥炭層である。土性はSL(触感)である。色は10YRで明度3~5、彩度1~2である。礫なし。鉄の糸根状酸化沈積物あり。孔隙細孔含む。ち密度17~19で疎~中。

代表的断面形態

(畑)

(所在地) 鶴居村下久著呂 (試坑27)

第1層	0~15cm	腐植を含む、灰褐(10YR5/2)のSiCL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。糸根状酸化沈積物あり。細孔あり。ち密度19で中。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第2層	15~30cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/4)のSiCL。礫なし。発達弱度の塊状構造。糸根状酸化沈積物あり。細孔含む。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.8。調査時の湿り湿。層界波状明瞭。
第3層	30~45cm	腐植を欠く、灰褐(10YR6/2)のL。礫なし。均質連結状。糸根状酸化沈積物あり。小孔あり。ち密度25で密。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り潤。層界波状明瞭。Me-1a層。湧水。
第4層	45~47cm	腐植を欠く、黄褐(10YR4/6)のL。礫なし。弱度の細塊状構造あり。糸根状酸化沈積物あり。細孔あり。ち密度16で疎。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り潤。層界波状明瞭。湧水。
第5層	47~50cm	腐植を欠く、灰褐(10YR7/1)のL。礫なし。均質連結状。糸根状酸化沈積物あり。細孔あり。ち密度21で中。PH(H ₂ O)5.9。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。Me-2a層。湧水。
第6層	50~64cm	腐植を含む、黄褐(10YR3/4)のSL(触感)。礫なし。発達弱度の細塊状構造。斑鉄の集積層。細孔あり。ち密度16で疎。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。湧水。
第7層	64~67cm	泥炭、黒色(10YR2/1)の低位泥炭層。礫なし。糸根状酸化沈積物あり。ち密度17で疎。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。湧水。
第8層	67cm~	亜泥炭、灰褐(10YR4/1)のヨシを含む亜泥炭層。礫なし。糸根状酸化沈積物あり。ち密度18で疎。調査時の湿り潤。湧水。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~15	4.8	-	1.3	21.8	58.1	18.5	SiCL
2	15~30							
3	30~45							
4	45~47	1.2	-	1.1	50.8	43.9	4.2	L
5	47~50							

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P ₂ H	
							H O	K C l
1	-	-	2.57	0.26	10	4.3	5.8	4.6
2	-	-						
3	-	-	-	-	-	-	5.9	4.8
4	-	-						
5	-	-						

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	1.9	23.5	11.6	1.1	0.1	49.4	1.163	2.6
2								
3								
4	1.3	3.8	1.6	0.3	0.1	42.1	1.293	13.1
5								

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては中幌呂統、音根内統、ツルハシナイ統があるが、中幌呂統とは腐植層序、表土、作土の土性が異り、音根内統、ツルハシナイ統とは母材、堆積様式が異りそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／低位泥炭（ヨシ）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／集積（ヨシ）

B 地形 平坦

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

地下水面が高いので排水が必要である。塩基、磷酸等が不足しているため炭カル、熔燐等を施用すること。防霧林の設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村下久著呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
下久著呂南一下久著呂南	IVW III a I f n

② 土壌区別説明

下久著呂南統一下久著呂南区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤表	有表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																										
生	効	土	(表	(表	地	(透	(保	(濕	然	(保	(固	(土	分	置	(有	(微	(酸	(有	(物	(增	(地	(自	(傾	(入	(侵	(耐	(耐									
産	土	土	耘	土	の	水	水	潤	肥	肥	定	層	換	性	石	苦	加	有	微	害	冠	す	然	斜	為	水	風									
力	の	の	の	の	乾	(性	(性	度	度	力	力	の	の	石	灰	土	里	効	量	害	水	べ	傾	方	傾	風	風									
可	厚	難	粘	着	湿	(性	(性	度	度	力	力	否	量	含	含	里	効	量	害	危	の	傾	方	傾	風	風										
能	深	含	性	性	湿	(性	(性	度	度	力	力	否	量	含	含	里	効	量	害	險	の	傾	方	傾	風	風										
性	等	さ	量	易	性	(性	(性	度	度	力	力	否	量	含	含	里	効	量	害	險	の	傾	方	傾	風	風										
級	t	d	g	P	W	f	n	i	a	S	e																									
IV	I	I	I	I	2	1	1	IV	3	2	3	II	1	2	2	II	2	2	3	2	1	2	I	1	1	III	3	1	I	1	-	-	I	1	1	1
簡略分級式 IV W III a II f n																																				

A 土壤区の特徴

この土壤区は下久著呂南統に属する。表土の厚さは30cm前後で厚い。有効土層は1mで深い。表土の土性は粘質のため耕起、砕土はやや困難である。保肥力小、土層の塩基状態やや不良で自然肥沃度は中である。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で反応も弱酸性であり養分状態は中である。地下水位が高く多湿であり、増冠水の危険度は高い。

B 植生及び利用状況

牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

明暗渠排水により地下水位を下げる。石灰、熔燐等の土壌改良資材の増施。防霧林の設置。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村下久著呂

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

中 幌 呂 統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ7~12cmで腐植含量12~15%、土性はLであるが泥炭含む。色は10YRで明度、彩度ともに2~4である。礫なし。発達弱度の細塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度5~7で極疎。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ8~13cmで腐植を欠く、土性はLである。色は10YRで明度5~7、彩度3~5である。礫なし。均質連結状。孔隙細孔あり。ち密度12~14で疎。PH(H₂O)5.6前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。

第3層は厚さ5~10cmで腐植含量28~32%、土性はL(触感)である。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度9~11で極疎~疎。PH(H₂O)5.1前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は厚さ6~8cmで腐植含量6~8%、土性はSiLである。色は10YRで明度3~5、彩度5~7である。礫なし。均質連結状。孔隙細孔含む。ち密度25~27で密。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第5層は厚さ10~15cmで腐植含量14~16%、土性はLiCである。色は10YRで明度、彩度ともに1~2である。礫なし。発達中度の塊状構造。孔隙細孔あり。ち密度16~18で疎。PH(H₂O)5.5前後。下層との境界平坦明瞭である。

第6層は厚さ5~10cmで腐植含量3~5%、土性はSL(触感)である。色は10YRで明度3~5、彩度2~4である。礫なし。均質連結状。孔隙なし。ち密度16~18で疎。

第7層は57cm以下で低位泥炭層である。

代 表 的 断 面 形 態

(未墾地)

(所在地) 鶴居村中幌呂 (試抗67)

第1層	0~10cm	腐植に頗る富む、黄褐(10YR3/3)のL。礫なし。発達弱度の細塊状構造。細孔あり。ち密度6で極疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り潤。本層は泥炭含む。層界平坦明瞭。
第2層	10~20cm	腐植を欠く、黄褐(10YR6/4)のL。礫なし。均質連結状。細孔あり。ち密度13で疎。PH(H ₂ O)5.6。調査時の湿り潤。

		層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。
第3層	20~28cm	腐植土、黒色(10YR2/2)のL(触感)。礫なし。発達中度の塊状構造。細孔あり。ち密度10で極疎。PH(H ₂ O)5.1。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。Me-b層。
第4層	28~35cm	腐植に富む、黄褐(10YR4/6)のSiL。礫なし。均質連結状。細孔含む。ち密度26で密。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。Me-b層。
第5層	35~50cm	腐植に頗る富む、黒色(10YR1/1)のLiC。礫なし。発達中度の塊状構造。細孔あり。ち密度17で疎。PH(H ₂ O)5.5。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。湧水。
第6層	50~57cm	腐植を含む、黄褐(10YR4/3)のSL(触感)。礫なし。均質連結状。孔隙なし。ち密度17で疎。調査時の湿り潤。湧水。
第7層	57cm~	ヨシを構成植物とする低位泥炭層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成%				土性
				粗砂	細砂	シルト	粘土	
1	0~10	} 1.9	-	1.8	54.2	38.9	5.1	L
2	10~20							
3	20~28	8.9	-	-	-	-	-	-
4	28~35	4.1	-	1.9	41.6	50.7	5.9	SiL
5	35~50	8.7	-	8.0	33.6	29.9	28.5	LiC

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	PH	
							H ₂ O	KCl
1	-	-	31.7	0.20	16	5.3	5.6	4.6
2	-	-						
3	-	-	18.76	1.56	12	31.3	5.1	4.1
4	-	-	4.76	0.38	13	7.9	5.5	4.4
5	-	-	8.97	0.57	16	15.0	5.5	4.3

層位	置換酸度 Y _a	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1								
2	2.5	7.1	1.4	0.1	0.1	19.7	70.7	3.9
3	0.6	40.5	6.3	0.9	0.1	15.6	4.4	2.6
4	6.9	11.9	0.9	0.1	0.1	7.6	67.8	2.0
5	2.5	34.8	3.9	0.7	0.1	11.2	132.3	2.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として下久著呂南統、音根内統、ツルハシナイ統があるか下久著呂南統とは腐植層序、表土、作土の土性が異なる、音根内統とは母材が異なり、ツルハシナイ統とは腐植層序が異なり、それぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山灰）／低位泥炭（ヨシ）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／集積（ヨシ）

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050 mm

D 植生及び利用状況

大部分未墾地で一部は牧草が栽培されている。

E 農業上の留意事項

明暗渠排水、酸性矯正、土壌改良資材施用。防霧林設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村中幌呂

調査及び記載責任者 上坂晶司（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
中幌呂 - 中幌呂	IVW III t f n a

② 土壌区別説明

中幌呂統 - 中幌呂区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生	効	土	(表	(表	(表	地	(透	(保	(濕	然	(保	(固	分	(置	(有	(微	(酸	(有	(物	(增	(地	(自	(傾	(入	(侵	(耐	(耐								
産	土	土	土	土	土	の	水	水	潤	肥	肥	定	塩	石	苦	加	燐	害	物	冠	す	然	斜	為	水	風									
力	の	の	の	の	の	乾	性	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	量	量	質	水	の	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
可	の	の	の	の	の	乾	性	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	量	量	質	水	の	危	危	傾	傾	蝕	蝕								
能	厚	深	含	難	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	量	量	質	無	性	性	斜	斜	斜	蝕	蝕									
性	等	さ	量	易	性	性	性	性	度	力	力	状	豊	含	量	量	量	質	無	性	性	斜	斜	斜	蝕	蝕									
級	t	d	g	P									n						i	a		S			e										
IV	III	I	I	I	1	1	1	IV	3	2	3	III	2	2	3	III	3	3	3	2	1	2	I	1	1	III	3	1	I	1	--	I	1	1	1
簡略分級式 NW III t f n a S e																																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は中幌呂統に属する。表土の厚さは10cm前後で薄い。有効土層は1mで深い。表土の土性は壤質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中、固定力小、土層の塩基状態不良で自然肥沃度は低い。作土は一般に塩基、燐酸が少なく、反応も強酸性で養分状態は少い。多湿で増冠水による危険度は極めて大きい。

B 植生及び利用状況

大部分は未墾地で一部牧草が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

多湿状態を呈しているので明暗渠排水後、炭カル、熔燐等の土壤改良資材の施用に努めること。また防霧林の設置も忘れてはならない。

D 分 布 北海道阿寒郡鶴居村中幌呂

記載責任者 上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

音 根 内 統

(1) 土壤統の概要

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量25～35%のミズゴケ等を主要構成植物とする、極めて分解不良の高位泥炭層である。色は5YRで明度2～4、彩度1～2である。ち密度5～7で極疎。PH(H₂O)4.8前後。調査時の湿り潤。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ4～5cmで腐植含量2%前後、土性はSCLである。色は10YRで明度6～7彩度3～5である。均質連結状。孔隙なし。ち密度6～9で極疎。PH(H₂O)5.3前後。調査時の湿り潤。下層との境界平坦明瞭である。Me-1a、2a層。湧水。

第3層は28cm以下で腐植含量75～85%のミズゴケ等を構成植物とする。極めて未分解の高位泥炭層である。色は5YRで明度1～3、彩度3～5である。ち密度2～3で極疎。PH(H₂O)4.2前後。調査時の湿り潤。湧水。

代 表 的 断 面 形 態

(未墾地)

(所在地) 鶴居村音根内 (試抗75)

第1層	0～23cm	泥炭、黒色(5YR3/1)の高位泥炭層。ち密度6で極疎。PH(H ₂ O)4.8。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。
第2層	23～28cm	腐植含む、黄褐(10YR6/4)のSCL。均質連結状。孔隙なし。ち密度8で極疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。Me-1a、2a層。湧水。
第3層	28cm～	泥炭、黄褐(5YR2/4)の高位泥炭層。ち密度2で極疎。PH(H ₂ O)4.2。調査時の湿り潤。湧水。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0～23	7.4	—	12.1	33.5	35.6	18.8	CL
2	23～28	1.0	—	1.6	55.1	19.2	24.1	SCL
3	28～	13.4	—	—	—	—	—	—

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	-	-	18.09	0.63	29	30.2	4.8	3.9
2	-	-	12.4	0.02	54	2.1	5.3	4.4
3	-	-	47.80	0.64	75	79.7	4.2	3.3

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸 吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	8.8	49.0	5.8	2.4	0.2	11.8	1.480	3.0
2	3.1	2.8	0.4	0.0	0.0	14.3	1.208	8.3
3	6.3	95.8	13.6	5.1	0.1	14.2	1.50	3.9

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接または類似する統としては、ツルハシナイ統があるが、腐植層序および泥炭構成植物が異り本統と区別される。

A-3 母材集積

A-4 堆積様式 集積/風積(火山性)/集積

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

極めて地下水位が高く耕地としては利用されていないのが現状であり、植生としてはミズゴケ、ヒメシヤクナゲ、ガンコウラン、ワレモコウ等の密生する湿原となっている。なお本地域は丹頂鶴保護のため天然記念物に指定されている。

E 農業上の留意事項

耕地化をはかるには、まず基幹排水施設を設け明暗渠等による排水が必要であり、排水による地盤沈下後、客土および酸生矯正をはかる必要がある。また土壌改良資材の施用に努めること。防霧林の設置も必要である。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村音根内 キラコタン

調査及び記載責任者 後藤計二 (北海道立中央農業試験場)
上坂晶司

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
音 根 内 - 音 根 内	IVW III a II t f n

② 土壤区別説明

音 根 内 統 - 音 根 内 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	農 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵																									
生 産 力 の 可 能 性 等 級	効 土 層 の 厚 さ	土 転 土 の 粘 性 易	(表 土 の 風 乾 上 の 硬 さ)	地 透 水 性	(保 湿 然 肥 沃 度)	(固 定 力 態 否)	(置 換 性 石 灰 土 含 量)	(有 効 態 加 里 酸 量 要 素 性)	(微 酸 害 無 性)	(有 害 物 質 の 有 害 性)	(增 冠 水 の 危 険 度)	(地 す べ り の 危 険 度)	(自 然 傾 斜 方 向)	(傾 斜 傾 斜 度)	(人 為 傾 斜 度)	(侵 蝕 性)	(耐 風 蝕 性)																
t d g P			湿 性 度	度								斜	斜	斜	斜																		
IV	II	II	II	2	1	(2)	IV	3	2	3	II	1	2	3	II	2	1	2	2	3	I	1	1	III	3	1	I	1	--	I	1	1	2
簡 略 分 級 式		IVW III a II t f n																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は音根内統に属する。表土の厚さは20cm前後でやや厚い。有効土層は1m以上で深い。耕起、碎土は容易である。保肥力大、固定力小で土層の塩基含量少く未飽和で自然肥沃度は中である。作土は一般に塩基、磷酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。地下水位が高く極めて増冠水の危険度が大きく、表面直下から湧水面になっている。

B 植生及び利用状況

未開発の湿原。植生としてはミズゴケ、ヒメシヤクナゲ、ガンコウラン 等が密生している。

C 地力保全上の問題点

河川改修による排水。客土。酸性矯正。塩基の補給。防霧林の設置。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村音根内、キラコタン

記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)
上 坂 晶 司

日 付 昭和46年3月31日

ツルハシナイ統

(1) 土壌統の概要

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ8~12cmで腐植含量10~12%、土性はLであるが本層はヨシを主要構成植物とする。低位泥炭土に火山灰を混入した分解やや良好な亜泥炭層である。色は10YRで明度5~7、彩度1~3の火山灰と明度6~8、彩度3~5の火山灰に分かれ上層がMe-1a層、下層がMe-2a層である。ち密度6~8で極疎。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は厚さ50~60cmで腐植含量50~60%のヨシ等を主要構成植物とする、極めて分解不良の低位泥炭層である。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。ち密度9~11で極疎~疎。PH(H₂O)5.3前後。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ20~25cmで腐植含量1~3%、土性はSiLである。色は10YRで明度4~6、彩度5~7である。礫なし。均質連結状。孔隙なし。ち密度19~21で中。PH(H₂O)6.0前後。下層との境界平坦明瞭である。Me-b層。

第4層は80cm以下でヨシ、ハンノキ等を構成植物とする。極めて分解不良の低位泥炭層である。色は10YRで明度、彩度ともに1~3である。ち密度9~11で極疎~疎。

断表的断面形態

(未墾地)

(所在地) 鶴居村ツルハシナイ (試抗B0)

第1層	0~10cm	腐植に富む、黄褐(10YR6/2)(10YR7/4)の二層の火山灰層が混入した低位亜泥炭層。ち密度7で極疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。上層がMe-1a層。下層がMe-2a層。
第2層	10~60cm	泥炭、黄褐(10YR2/3)のヨシを主要構成植物とする、極めて分解不良の低位泥炭層。ち密度10で極疎。PH(H ₂ O)5.3。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。湧水。
第3層	60~80cm	腐植あり、黄褐(10YR5/6)のSiL。礫なし。均質連結状。孔隙なし。ち密度20で中。PH(H ₂ O)6.0。調査時の湿り潤。層界平坦明瞭。Me-b層。湧水。

第 4 層	80cm	泥炭、黒色(10YR2/1)の低位泥炭層。ち密度10で極疎。調査時の湿り潤。湧水。
-------	------	---

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒 径 組 成 %				土 性
				粗 砂	細 砂	シルト	粘 土	
1	0~10	4.5	-	2.4	46.1	40.7	10.8	L
2	10~60	12.2	-	-	-	-	-	LP
3	60~80	1.1	-	1.4	50.1	45.1	3.3	SiL

層位	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 植 %	P H	
							H ₂ O	KCl
1	-	-	6.63	0.44	15	11.1	5.3	4.6
2	-	-	32.09	1.83	17	53.5	5.3	4.4
3	-	-	1.16	0.06	19	1.9	6.0	5.0

層位	置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	燐 酸 吸収係数	有効態燐酸 mg/100g
			CaO	MgO	K ₂ O			
1	0.5	16.5	6.5	1.1	0.3	39.4	1.717	3.0
2	1.3	64.5	34.3	1.7	0.5	53.2	5.01	3.5
3	0.6	2.4	1.0	0.3	0.1	41.7	51	6.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統として中幌呂統、下久著呂南統および音根内統があるが、いずれも母材、堆積様式が異り、それぞれ本統と区別される。

A-3 母 材 低位泥炭(ヨシ)/低位泥炭(ヨシ)

A-4 堆積様式 集積(ヨシ)/集積(ヨシ)

B 地 形 低平地

C 気 候 年平均気温 5.5℃ 年降水量 1,050mm

D 植生及び利用状況

未開発の湿原。植生としてヨシ、ハンノキ、ゼンマイ等が密生している。

E 農業上の留意事項

河川改修等による基幹排水施設の設置。客土。酸性矯正。塩基の補給。防森林の設置。

F 分布 北海道阿寒郡鶴居村釧路原野一帯

調査及び記載責任者 後 藤 計 二 (北海道立中央農業試験場)
上 坂 晶 司

年 月 日 昭和46年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
ツルハシナイーツルハシナイ	IVW III ta II fn

② 土壌区別説明

ツルハシナイ統ーツルハシナイ区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																												
生	効	土	(表	(表	地	透	保	濕	然	保	固	分	置	有	微	酸	(有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐													
産	土	の	土	の	土	風	乾	水	水	潤	肥	定	塩	基	灰	石	苦	加	燐	量	害	物	理	的	害	障	害	無	性	性	斜	向	斜	度	性	性			
力	の	層	の	の	の	粘	土	の	乾	性	性	度	度	力	力	態	否	量	素	度	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性		
可	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	厚	深	含	難	土	着	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
性	等	さ	さ	量	易	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
級	t	d	g	P		W		f		n																													
IV	III	I	I	I	1	1	1	N	3	2	3	II	2	3	1	II	2	2	1	2	2	2	I	1	1	III	3	1	I	1	-	-	I	1	1	2			
簡略分級式		IVW III ta II fn																																					

A 土壌区の特徴

この土壌区はツルハンナイ統に属する。表土の厚さは10cm前後で薄い。有効土層は1m以上で深い。表土の土性は埴質のため耕起、碎土は容易である。保肥力中。固定力中、土層の塩基状態良好で自然肥沃度は中である。作土は一般に塩基、燐酸は中庸で強酸性を呈し養分状態は中である。地下水位が極めて高く増冠水の危険度が大きく、表面直下から湧水面になっているのが現状である。

B 植生及び利用状況

未開発の湿原。植生としてはヨシ、ハンノキ、ゼンマイ等が密生している。

C 地力保全土の問題点

大規模な河川改修による基幹排水施設の設置。客土。酸性矯正。塩基の補給。防霧林の設置。

D 分 布

北海道阿寒郡鶴居村鉦路原野一帯

記載責任者 後 藤 計 二
上 坂 晶 司 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和46年3月31日

3 保全対策地区区分及び説明

1) 保全対策地区の設定

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区名	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
中雪裡南	支雪裡-支雪裡 支雪裡南-支雪裡南 中雪裡南-中雪裡南 中雪裡東-中雪裡東 新幌呂-新幌呂 茂幌呂-茂幌呂 中久著呂北-中久著呂北 上久著呂-上久著呂 中幌呂南-中幌呂南 中久著呂中央-中久著呂中央 中久著呂南-中久著呂南	1,700	火山灰土壌で全般的に腐植層は厚いが作土の厚さが浅くかつ石灰、燐酸に極めて不足している地域で土壌改良を行う必要がある。	土壌改良資材施用 塩基補給 防霧林の設置 漸次深耕
下雪裡	下雪裡-下雪裡	400	塩基欠乏の甚しい地域	土壌改良資材施用 防霧林の設置
中久著呂	中雪裡-中雪裡 中久著呂-中久著呂	105	塩基、有機物が少ない地域	土壌改良資材施用 有機物施用
ツルハシナイ	下久著呂南-下久著呂南 中幌呂-中幌呂 音根内-音根内 ツルハシナイ-ツルハシナイ	18	極めて排水不良の泥炭地	河川改修、客土。 明暗渠排水 土壌改良資材施用 防霧林の設置

2) 保全対策地区説明

< 中雪裡南保全対策区 >

(1) 分布

市町村名	面積(ha)	該当土壌区
阿寒郡鶴居村	1,700	支雪裡、支雪裡南、中雪裡南、中雪裡東、新幌呂、茂幌呂、中久著呂北、上久著呂、中幌呂南、中久著呂中央 中久著呂南

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山性土のうち、作土の厚さが浅く、石灰、燐酸に甚しく欠乏している地域を取りまとめたものである。従つて、耕起時漸次深耕を計り作土層を深め、併せて石灰、燐酸等の土壌改良資材を施用し地力の増進を図ることが必要である。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備考
土壌改良資材施用	支雪裡、支雪裡南、中雪裡南、 中雪裡東、新幌呂、茂幌呂、 中久著呂北、上久著呂、中幌 呂南、中久著呂中央、中久著 呂南 (1,700)	石灰、燐酸、苦 土、加里等の増施	炭カル、熔燐等の施用	
深 耕		漸次深耕	指導	
防 霧		防 霧 林	防霧林の設置	

< 下 雪 裡 保 全 対 策 区 >

(1) 分 布

市町村名	面積(ha)	該 当 土 壤 区
阿寒郡鶴居村	400	下 雪 裡

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は火山性土のうち、甚しく塩基、燐酸等が不足している地域を取りまとめたものである。従つて燐酸、石灰、苦土、加里を土壌改良資材として施用し併せて酸性矯正をはかり、地力の増進に努める必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象 面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量等	備考
土壌改良資材施用	下雪裡	燐酸、石灰、苦 土、加里等を土 壌改良資材とし て施用	熔燐、炭カル等の施用。	
酸性矯正		完全混和	PH(H ₂ O)6.0になるよう に矯正	
防 霧	(400)	防霧林	防霧林の設置	

＜中久著呂保全対策区＞

(1) 分 布

市 町 村 名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
阿寒郡鶴居村	105	中雪裡、中久著呂

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は河川付近地区のうち上層は火山灰、下層が浮石、円礫等の出現する地帯を取りまとめたものである。一般に酸性化が進んでおり、酸性矯正、堆厩肥の施用、塩基の補給等をはかり地力増進を計る必要がある。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
酸性矯正	中雪裡 中久著呂 (105)	完全混和	PH (H ₂ O) 6.0になるよう矯正。炭カル、苦土石灰、	
塩基の補給		石灰、苦土加里、窒素の施用	尿素、硫酸、苦土石灰、硫酸加里の施用。	
堆厩肥施用		完全混和	2～3 t / 10a	

＜ツルハシナイ保全対策区＞

(1) 分 布

市 町 村 名	面積 (ha)	該 当 土 壤 区
阿寒郡鶴居村	18	下久著呂南、中幌呂、音根内、ツルハシナイ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

本対策地区の特徴は低平地に存在する泥炭地域を取りまとめたものである。本地帯は大部分が未開発地域で表面より帯水状態を呈しており、まず大規模な河川改修を行い基幹排水施設を設置する必要があり、その後の地盤沈下が終りしだい明暗渠排水を行い併せて土壌改良資材の施用、客土、酸性矯正を行わなければ耕地化は難しいと思われる。また防霧林の設置も忘れてはならない。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
排水	下久著呂南 中幌呂 音根内 ツルハンナイ (18)	河川改修 明暗渠排水	素焼土管、塩化ビニールパイプ等工事費の助成	大部分は未開発地域
土壌改良資材施用		石灰、燐酸等を施用	燐燐、炭カル等の施用。	
客土		馬搬	良質粘土	
酸性矯正		完全混和	pH(H ₂ O)6.0になるように矯正	
防霧		防霧林	防霧林の設置	

簡易分析一覽表

試坑番号	部落名	耕作者氏名	pH		Y ₁
			H ₂ O	KCl	
2	上久著呂	-	5.5/5.9	4.5/5.0	1.3/0.6
12	支雪裡	小池日出夫	5.5/5.8	4.6/4.5	1.3/0.6
13	"	朝日農場	4.8/5.3	4.0/4.4	3.8/1.3
14	"	竹達末吉	5.2/5.4	4.3/4.4	1.3/1.3
17	下雪裡	松林憲一	5.5/5.2	4.7/4.6	0.6/1.9
19	"	手塚喜一	4.8/4.9	3.9/4.4	4.8/1.3
20	"	宮沢湿一	5.6/4.6	4.4/4.0	1.3/3.8
21	"	松井喜長	5.4/4.9	4.6/4.4	1.3/1.3
23	中雪裡南	管谷よし子	5.1/5.5	4.2/5.0	1.9/0.6
24	下久著呂	井上和市	5.3/5.0	4.3/4.3	1.3/1.3
25	"	塚田留五郎	5.1/5.2	4.3/4.2	1.3/1.9
26	"	鈴木林作	4.5/5.1	4.2/4.7	1.9/0.6
28	"	安藤哲三	5.4/5.8	4.2/4.3	1.3/1.3
29	"	渋谷松雄	5.5/5.5	4.6/4.8	1.3/0.6

試坑 番号	部落名	耕作者氏名	p H		Y ₁
			H ₂ O	KCl	
30	下久著呂	安藤九一	5.3/5.5	4.1/3.8	1.9/3.1
31	暁峰	松久三郎	5.3/5.4	4.2/4.1	1.9/2.5
32	中雪裡	杉本一郎	5.1/5.3	4.1/4.1	1.9/1.9
34	"	市川栄三	5.6/5.8	4.4/4.8	1.3/0.6
36	茂雪裡	佐藤重雄	5.3/5.1	4.4/4.5	1.3/1.3
37	"	河田忠利	5.6/5.5	4.7/4.5	1.3/1.3
38	"	細沼孝吉	5.0/5.7	4.4/4.6	1.3/0.6
39	"	佐久間寿信	5.8/5.4	4.6/4.7	1.3/0.6
40	"	伊藤政好	5.5/5.4	4.7/4.9	1.3/0.6
41	"	北村永夫	5.7/6.0	5.1/5.2	0.6/0.6
42	"	清和農場	5.7/5.5	5.3/4.9	1.3/1.3
43	中雪裡	北村恒夫	5.0/5.8	4.4/4.9	1.3/1.3
45	幌呂	武藤賀寿雄	5.9/5.5	5.0/5.0	1.3/1.3
47	新幌呂	秋葉泰治	5.4/5.9	4.4/4.8	1.3/0.6
48	"	山口桂太郎	5.6/6.2	5.1/5.2	1.3/1.9
49	"	蛭田秀夫	5.9/6.0	5.3/5.1	1.3/0.6
50	"	佐藤啓祐	5.2/5.0	4.2/4.4	2.5/1.3
51	"	千田芳男	5.0/5.6	4.5/4.6	1.3/1.3
53	上幌呂	松井広樹	5.5/5.8	4.4/4.4	1.3/1.3
54	"	片倉てつよ	- /5.6	- /4.7	- /1.3
56	茂幌呂	田中四郎	5.1/5.2	4.5/4.4	1.9/1.3
58	支幌呂	坂本一司	5.9/5.2	5.1/4.8	1.3/0.6
60	平和	堀井政雄	5.1/5.0	4.6/4.4	1.3/1.3
61	"	中野仁造	5.3/5.8	4.2/4.8	1.3/0.6
62	茂幌呂	永瀬夏男	5.6/5.1	4.6/4.2	1.3/1.9
63	"	岡田三郎	5.1/5.0	4.5/4.3	0.6/2.5

試坑 番号	部 落 名	耕 作 者 氏 名	P ^H		Y ₁
			H ₂ O	KCl	
65	幌 呂	大 石 谷 正 勇	5.3/5.4	4.3/4.4	1.3/1.3
66	中 幌 呂	藪 本 万	5.3/5.8	4.5/4.8	1.3/0.6
69	中 幌 呂 下	小 栗 養 鶏 場	5.9/6.1	4.8/5.0	1.3/1.3
70	"	関 根 富 藏	5.0/5.0	4.2/4.3	2.5/1.9
71	下 幌 呂	沼 崎 一	5.6/5.2	4.5/4.6	1.3/1.3
72	"	金 沢 利 夫	4.4/5.3	4.0/4.5	1.9/0.6
73	"	尾 田 千 代 藏	5.4/5.4	4.2/4.0	2.5/3.8
74	"	相 馬 定 志	5.0/5.4	4.5/4.7	1.3/0.6
76	音 根 内	国 有 地	5.2/5.7	4.0/4.3	1.9/1.3
77	下 幌 呂	川 崎 一	5.7/5.6	4.6/4.4	1.3/1.9
78	"	甲 斐 寅 藏	5.5/5.3	4.6/4.5	0.6/1.3
81	ツルハシナイ	一	5.2/5.4	4.0/4.3	1.9/1.9
82	中 雪 裡	築 前 次 郎	5.6/5.5	4.5/4.4	1.3/1.3
83	"	久 保 田 音 吉	5.7/5.9	4.9/4.9	1.3/0.6

土 壤 分 析 成 績

土壤分析成績(畑)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現 地 に お け る 理 学 性				
					礫 (風 乾 物 中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	100CC 容 積 中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 粒 %	細 粒 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %	
																			中
中 雪	支 雪	9	1	0~15	-	6.9	16.5	8.8	38.7	47.5	36.2	16.4	CL	79.0	34.8	60.8	4.4	65.2	
			2	15~20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			3	20~28	-	12.0	22.7	11.5	31.7	43.2	38.8	17.9	CL	46.6	16.8	55.0	28.2	83.2	
			4	28~48	-	8.8	10.7	18.6	42.3	60.9	31.5	7.6	L	55.4	21.9	55.0	23.1	78.1	
			5	48~59	-	4.2	2.5	36.3	45.3	81.6	17.0	1.5	SL	-	-	-	-	-	
			6	59~78	-	3.9	1.7	38.1	40.7	78.8	13.0	8.1	SL	-	-	-	-	-	
			7	78~97	-	9.0	5.7	35.9	37.3	73.2	20.9	5.9	SL	-	-	-	-	-	
			8	97~	-	4.2	-	66.6	21.4	88.0	10.8	1.2	SL	-	-	-	-	-	
	雪	裡	10	1	0~15	-	8.2	9.2	16.9	32.9	49.8	39.8	11.3	L	-	-	-	-	-
				2	15~25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				3	25~39	-	9.2	11.9	18.8	34.9	53.7	34.0	12.3	L	-	-	-	-	-
				4	39~53	-	8.0	5.6	25.8	43.3	69.1	27.7	3.2	SL	-	-	-	-	-
				5	53~68	-	10.2	5.5	32.4	39.0	71.4	23.4	5.2	SL	-	-	-	-	-
				6	68~82	-	5.2	2.2	49.7	33.5	83.2	13.8	3.0	SL	-	-	-	-	-
				7	82~	-	8.1	-	19.1	38.9	58.0	30.8	11.1	L	-	-	-	-	-
	裡 南	支 雪	7	1	0~10	-	6.9	12.6	5.8	43.3	49.1	41.6	9.3	L	81.3	36.4	58.8	4.8	63.6
2				10~18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3				18~27	-	11.2	20.6	15.0	37.9	52.9	52.9	35.1	L	55.9	24.3	54.4	21.3	75.7	
4				27~32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
5				32~49	-	8.4	4.9	28.9	45.4	74.3	23.1	2.5	SL	71.8	29.5	46.0	24.5	70.5	
6				49~62	-	11.2	6.6	35.9	39.1	75.0	10.7	14.3	SL	-	-	-	-	-	
7				62~90	-	6.8	-	66.5	19.9	86.4	10.5	3.1	LS	-	-	-	-	-	
8				90~	-	9.4	-	23.9	38.5	62.4	29.7	7.9	L	-	-	-	-	-	
南	中 雪	15	1	0~13	-	5.8	12.6	4.6	39.6	44.2	40.3	15.5	CL	83.9	34.9	59.7	5.4	65.1	
			2	13~18	-	8.3	13.4	6.1	39.4	45.5	39.1	15.5	CL	-	-	-	-	-	
			3	18~25	-	6.8	4.7	3.9	52.3	56.2	38.1	5.7	L	-	-	-	-	-	
			4	25~35	-	11.2	5.7	24.8	54.3	78.1	17.3	3.5	SL	-	-	-	-	-	
			5	35~43	-	11.3	5.3	28.3	48.8	77.1	21.3	1.6	SL	-	-	-	-	-	
			6	43~72	-	7.8	-	39.8	48.1	87.9	7.8	4.3	LS	-	-	-	-	-	
	裡 南	16	1	0~15	-	5.7	13.3	3.6	40.8	44.4	40.3	15.3	CL	80.5	34.7	57.4	7.9	65.3	
			2	15~23	-	7.9	15.7	4.4	39.3	43.7	38.9	17.4	CL	66.7	28.6	59.0	12.4	71.4	
			3	23~35	-	8.9	6.3	33.0	44.0	77.0	18.8	4.2	SL	54.0	19.5	43.7	36.8	80.5	
			4	35~44	-	5.5	2.7	2.6	81.5	84.1	13.4	2.5	SL	-	-	-	-	-	
			5	44~55	-	10.7	7.7	20.6	41.2	61.8	30.3	7.8	L	-	-	-	-	-	
			6	55~72	-	11.9	5.3	39.6	47.3	86.9	11.0	2.0	LS	-	-	-	-	-	
			7	72~95	-	10.5	5.2	26.3	52.6	78.9	19.6	1.5	SL	-	-	-	-	-	

化 学 性												
P ^H		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 能 磷 酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.9	4.7	0.5	9.91	0.07	14	35.8	474	18	5	47.2	1.798	2.3
5.2	4.3	1.9	13.62	0.88	15	55.3	382	25	3	24.6	2.647	1.5
5.8	4.7	0.6	6.42	0.46	14	27.2	136	8	3	17.6	2.394	2.0
5.8	4.9	0.4	1.51	0.10	15	5.0	23	2	5	16.0	1.325	2.0
5.7	5.0	0.1	1.02	0.06	17	4.9	26	2	6	18.4	1.239	2.0
5.6	4.9	0.1	3.45	0.26	13	17.2	115	8	5	23.8	2.145	1.0
5.7	5.0	0.1	—	—	—	5.6	40	3	4	25.0	1.320	1.3
5.7	4.9	0.3	5.49	0.42	13	19.9	140	17	11	28.6	2.091	1.3
5.6	4.7	0.4	7.16	0.50	14	30.1	178	11	17	20.9	2.310	1.0
5.7	4.9	0.3	3.34	0.24	14	20.1	77	10	20	13.9	2.141	1.0
5.7	5.0	0.1	3.29	0.22	15	14.8	70	7	21	16.9	2.195	0.7
5.5	4.9	0.1	1.29	0.07	18	6.9	14	3	12	7.2	1.473	0.7
5.8	4.8	0.3	—	—	—	14.0	136	9	64	34.3	1.573	1.0
5.2	4.5	1.3	7.54	0.53	14	28.0	271	7	31	34.6	1.761	2.0
5.5	4.6	1.0	12.34	0.69	18	44.5	342	23	35	27.4	2.502	2.0
5.6	4.8	0.6	2.96	0.19	15	13.4	85	3	8	22.4	1.987	2.0
5.4	4.8	0.6	3.93	0.26	15	21.2	84	9	2	14.1	2.272	1.8
5.7	5.1	0.4	—	—	—	7.6	33	3	2	15.8	1.455	2.0
5.6	5.1	0.4	—	—	—	13.6	86	7	10	22.8	1.919	2.6
5.3	4.6	0.8	7.57	0.55	14	19.3	203	5	4	37.3	1.691	2.6
5.3	4.5	0.5	8.06	0.55	15	24.9	214	17	3	30.5	1.824	1.8
6.0	5.1	0.1	2.83	0.21	13	9.4	66	9	4	24.5	1.685	1.5
6.3	5.2	0.1	3.45	0.27	13	17.8	131	7	3	26.4	2.263	1.3
6.2	5.1	0.1	3.20	0.25	13	22.5	113	6	2	17.8	2.182	4.7
6.6	5.5	0.1	—	—	13	11.0	54	6	3	17.3	1.727	2.3
5.4	4.7	0.4	8.00	0.67	—	24.1	369	8	5	55.6	1.533	3.9
5.3	4.6	0.8	9.42	0.74	12	33.7	345	15	4	36.5	1.816	3.0
5.8	5.0	0.4	3.76	0.30	13	13.5	148	7	2	39.3	1.981	2.6
6.0	5.2	0.3	1.61	0.13	13	6.1	82	9	2	47.5	1.128	tr
5.7	5.1	0.1	4.59	0.34	14	20.8	194	8	4	33.2	2.227	tr
5.8	5.1	0.1	3.16	0.23	14	18.3	157	8	2	30.6	2.197	tr
5.9	5.0	0.3	3.10	0.22	14	19.7	111	12	3	20.3	2.145	tr

土壤分析成績(畑)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性													
					隙 (風 乾 物 中) %	風 乾 土 中		細 土 無 機 物 中				土 性	現 地 に お け る 理 学 性 100CC 容 積 中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %		粘 土 %	容 積 量 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %
中 雪 裡 雨 裡 中 雪 裡	52	8	95~	-	9.1	-	6.0	68.3	74.3	21.0	4.7	SL	-	-	-	-	-	
		1	0~16	-	3.3	10.3	6.7	41.1	47.8	35.9	16.3	CL	81.4	37.4	58.0	4.6	62.6	
		2	16~22	}	-	5.1	4.2	24.4	53.6	78.0	21.2	0.7	SL	-	-	-	-	-
		3	22~28		-	6.3	5.9	23.5	44.1	67.6	32.0	0.4	SL	77.9	30.7	49.9	19.4	69.3
		4	28~38		-	5.3	3.5	45.3	36.1	81.4	12.6	5.9	SL	-	-	-	-	-
		5	38~50	}	-	9.6	12.5	4.1	29.2	35.3	47.4	19.4	SiCL	-	-	-	-	-
		6	50~65		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7	65~80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	55	1	0~13	}	-	7.3	12.6	7.3	40.8	48.1	38.2	13.7	L	83.4	36.6	59.8	3.6	63.4
		2	13~18		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		3	18~23	-	6.6	4.5	5.3	48.6	53.9	41.4	4.7	L	75.4	31.7	56.0	12.3	68.3	
		4	23~36	-	11.1	11.3	24.6	37.0	61.6	31.0	7.3	L	52.4	20.9	55.8	23.3	79.1	
		5	36~50	-	8.4	3.9	32.4	44.4	76.8	19.7	3.5	SL	59.8	23.2	50.5	26.3	76.8	
		6	50~60	-	10.0	7.5	29.9	40.2	70.1	23.5	6.4	SL	64.3	24.9	55.4	19.7	75.1	
		7	60~80	-	7.9	-	50.0	35.6	85.6	11.7	2.7	LS	-	-	-	-	-	
		8	80~98	-	4.9	-	69.4	18.2	87.6	9.7	2.8	LS	-	-	-	-	-	
	79	1	0~16	-	4.5	11.6	4.5	43.5	48.0	39.9	12.1	L	76.1	34.4	56.0	9.6	65.6	
		2	16~23	-	8.1	11.7	7.5	43.1	50.6	28.2	21.3	CL	72.6	30.3	62.9	6.8	69.7	
		3	23~30	-	5.4	4.7	3.6	48.3	51.9	43.2	4.9	L	76.8	29.9	53.7	16.4	70.1	
		4	30~43	-	11.2	11.5	22.0	36.6	58.6	29.7	11.6	L	53.7	20.5	53.6	25.9	79.5	
		5	43~52	-	12.6	7.6	28.5	42.4	70.9	22.4	6.6	SL	-	-	-	-	-	
		6	52~70	-	10.7	4.8	35.5	46.4	81.9	15.4	2.7	SL	-	-	-	-	-	
		7	70~95	-	6.7	1.4	54.9	31.6	86.5	11.3	2.2	LS	-	-	-	-	-	
		8	95~110	-	10.9	1.2	20.6	58.2	78.8	11.8	9.3	SL	-	-	-	-	-	
	33	1	0~10	}	-	8.3	17.1	9.1	46.5	55.6	36.2	8.2	L	79.6	35.2	61.0	3.8	64.8
		2	10~13		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		3	13~18	-	6.3	7.9	5.2	50.8	56.0	38.3	5.8	L	69.1	29.1	58.0	12.9	70.9	
		4	18~45	-	11.1	19.0	20.5	32.9	53.4	33.6	13.1	L	48.0	19.3	59.9	20.8	80.7	
5		45~50	-	10.5	7.9	26.5	43.7	70.2	25.7	4.1	SL	-	-	-	-	-		
6		50~72	-	9.6	10.2	36.8	37.1	73.9	21.3	4.7	SL	-	-	-	-	-		
7		72~100	-	5.1	2.3	75.4	15.7	91.1	6.9	2.0	S	-	-	-	-	-		
8		100~	-	4.6	-	56.6	23.0	79.6	16.5	4.0	SL	-	-	-	-	-		
57	1	0~10	-	7.0	13.6	4.7	42.4	47.1	39.6	13.3	L	79.8	34.4	61.0	4.6	65.6		
	2	10~17	-	7.1	13.2	4.4	42.1	46.5	39.8	13.7	L	81.0	36.5	58.9	4.6	63.5		
	3	17~24	-	7.5	6.3	8.7	43.3	52.0	40.7	7.3	L	61.0	24.8	55.4	19.8	75.2		
	4	24~33	}	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5	33~41		-	12.1	12.1	15.5	46.2	61.7	28.9	9.3	L	-	-	-	-	-	

化 学 性												
p H		置換酸度 %	有 機 物			塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸收係数	有効態磷酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
6.1	5.1	0.3	-	-	-	14.6	86	4	8	20.5	1,848	tr
5.3	4.2	0.6	6.19	0.51	12	23.2	291	17	11	44.8		
5.5	4.2	1.5	2.51	0.25	10	15.9	183	2	18	40.9	984	1.0
5.6	4.3	1.0	3.52	0.36	10	22.3	238	10	27	38.1	1,251	0.7
5.8	4.7	0.8	2.10	0.13	16	15.4	195	14	38	44.8	1,394	tr
5.6	4.4	0.5	7.53	0.53	14	39.0	574	35	17	52.6	958	tr
5.7	4.9	0.1	7.55	0.57	13	28.8	579	3	7	71.5	1,843	2.0
5.9	5.0	0.0	2.68	0.19	14	7.0	104	4	2	52.8	1,661	1.8
5.6	4.8	0.4	6.76	0.44	15	32.1	338	8	2	37.7	1,811	1.5
5.8	5.1	0.3	2.35	0.18	13	14.3	128	3	5	31.5	2,416	5.4
5.9	5.0	0.4	4.47	0.29	15	18.0	164	7	3	32.2	2,115	1.5
6.0	5.1	0.3	-	-	-	9.9	71	3	3	25.2	2,272	2.0
5.9	5.0	0.2	-	-	-	4.6	36	2	4	28.3	1,845	2.0
5.8	4.8	0.5	6.95	0.50	14	18.2	322	6	9	63.2	1,510	tr
6.0	5.1	0.6	7.05	0.47	15	23.1	303	4	3	46.7	1,384	2.6
6.0	5.2	0.5	2.80	0.19	15	9.3	94	2	2	36.6	2,038	1.5
6.0	5.1	1.3	6.90	0.42	16	27.6	288	21	3	37.3	1,757	1.5
6.0	5.2	1.3	4.58	0.30	15	23.6	159	23	3	24.1	2,496	1.8
6.0	5.4	0.6	2.90	0.20	15	15.5	104	19	4	23.9	2,453	3.0
6.0	5.5	0.6	0.83	0.09	9	6.8	54	2	4	27.9	2,163	2.6
6.2	5.4	0.6	0.72	0.09	8	12.2	103	5	18	30.3	1,788	4.1
5.8	4.8	0.4	10.42	0.62	17	35.1	786	12	4	79.8	1,987	2.6
5.6	4.6	0.4	4.75	0.30	16	15.7	178	4	2	40.1	2,014	tr
5.6	4.6	1.0	11.39	0.68	17	57.1	305	34	3	19.1	1,699	tr
5.6	4.6	0.5	4.75	0.31	15	22.1	103	8	5	16.7	2,647	tr
5.6	4.7	0.4	6.15	0.38	16	30.5	140	6	5	16.4	2,338	tr
5.7	5.0	0.1	1.37	0.07	19	6.5	25	2	2	13.8	2,275	tr
5.9	4.7	0.3	-	-	-	8.6	68	3	23	27.9	1,367	tr
5.5	4.5	0.3	8.16	0.57	14	33.8	544	6	7	57.4	1,236	3.0
5.7	4.6	0.4	7.94	0.57	15	25.9	563	9	4	63.3	1,722	3.6
5.8	4.8	0.4	3.80	0.26	15	14.6	169	4	3	41.1	1,701	1.3
5.6	4.6	0.4	7.32	0.48	15	36.3	145	14	4	14.3	2,037	1.3

土壤分析成績(畑)

保全 対策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における理学性 100 CC 容 中				
					礫 (風 乾 物 中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %	
東		6	41~48	-	12.0	12.4	26.4	44.8	71.2	22.5	6.3	SL	-	-	-	-	-		
		7	48~64	-									LS	-	-	-	-	-	
		8	64~80	-	6.9	3.3	58.8	26.8	85.6	9.9	4.5		-	-	-	-	-	-	
		9	80~	-	10.9	-	15.5	45.3	60.8	24.6	14.7	L	-	-	-	-	-	-	
	新 幌 呂	35	1	0~18	-								CL	85.1	35.3	59.4	5.3	64.7	
			2	18~30	-	5.1	8.6	12.6	45.4	58.0	26.1	15.8		-	-	-	-	-	
			3	30~32	-									-	-	-	-	-	
			4	32~47	-	11.6	20.7	8.8	43.8	52.6	37.2	10.2	L	48.8	19.9	62.8	17.3	80.1	
		5	47~60	-	10.6	5.6	12.7	53.8	66.5	29.6	4.0	SL	53.3	19.5	60.7	19.8	80.5		
46		1	0~13	-	6.1	12.8	12.8	40.0	52.8	35.7	11.6	L	69.9	30.9	59.7	9.4	69.1		
		2	13~29	-	10.0	18.1	16.6	34.0	50.6	36.8	12.5	L	50.7	20.3	67.8	11.9	79.7		
		3	29~38	-	7.5	12.6	4.7	44.4	49.1	43.3	7.6	L	51.6	20.3	63.7	16.0	79.7		
	4	38~53	-	12.5	20.2	12.4	38.1	50.5	37.6	11.9	L	44.6	17.7	66.3	16.0	82.3			
5	53~65	-	14.4	8.3	19.0	57.1	76.1	22.9	1.0	SL	49.9	19.4	68.7	11.9	80.6				
6	65~78	-	14.1	8.9	19.5	55.3	74.8	22.1	3.1	SL	51.9	17.7	62.2	20.1	82.3				
7	78~93	-	8.9	6.0	34.6	48.5	83.1	15.4	1.4	SL	-	-	-	-	-				
8	93~	-	3.8	1.5	79.8	11.8	91.6	5.0	3.2	LS	-	-	-	-	-				
西 茂 幌 呂	59	1	0~12	-	4.3	13.6	4.2	43.9	48.1	37.8	14.0	L	78.3	27.9	68.2	3.9	72.1		
		2	12~28	-	8.1	16.5	8.9	43.3	52.2	28.1	19.7	CL	51.6	22.1	52.6	25.3	77.9		
		3	28~32	-									-	-	-	-	-		
		4	32~47	-	9.9	18.6	12.8	36.3	49.1	35.7	15.2	CL	53.9	23.9	55.8	20.3	76.1		
		5	47~60	-	7.6	4.1	18.4	55.6	74.0	20.9	5.0	SL	-	-	-	-	-		
		6	60~	-	8.6	-	22.1	44.3	66.4	25.6	8.0	SL	-	-	-	-	-		
裡 中 久 著 呂 北	4	1	0~25	-	7.0	13.0	9.9	39.1	49.0	37.3	13.7	L	82.0	36.8	58.3	4.9	63.2		
		2	25~32	-	8.6	9.0	1.2	48.4	49.6	46.7	3.7	SiL	-	-	-	-	-		
		3	32~46	-	11.8	11.9	19.7	35.6	55.3	32.9	11.8	L	-	-	-	-	-		
		4	46~58	-	9.3	-	30.3	45.7	76.0	21.6	2.4	SL	-	-	-	-	-		
南 上 久 著 呂	1	1	0~13	-	4.4	8.9	7.8	42.4	50.2	38.5	11.2	L	-	-	-	-	-		
		2	13~17	-									-	-	-	-	-		
		3	17~23	-	7.1	8.3	28.4	47.7	76.1	13.8	10.1	SL	-	-	-	-	-		
		4	23~27	-									-	-	-	-	-		
		5	27~42	-	10.9	5.7	24.9	45.5	70.4	29.1	0.5	SL	-	-	-	-	-		
		6	42~65	-	7.3	-	36.5	44.5	81.0	18.0	0.9	SL	-	-	-	-	-		
		7	65~85	-	3.3	-	47.5	31.4	78.9	20.3	0.8	SL	-	-	-	-	-		
		8	85~93	-									-	-	-	-	-		

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 態 燐 酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.7	4.6	0.3	7.42	0.45	16	35.8	171	10	4	17.0	2.572	1.3
5.6	5.0	0.3	1.99	0.11	18	6.4	17	2	3	9.4	2.423	1.5
5.9	5.1	0.1	-	-	-	10.4	78	2	8	26.9	1.777	1.5
5.6	4.5	0.6	5.18	0.41	13	17.2	225	18	2	46.5	1.168	2.9
5.8	4.5	0.6	12.40	0.76	16	55.3	597	31	2	38.5	1.579	tr
5.9	4.8	0.3	3.36	0.21	16	17.0	121	3	2	25.3	2.625	tr
5.4	4.3	0.8	7.68	0.53	14	21.4	184	17	8	30.8	1.930	2.8
5.5	4.4	0.6	10.85	0.71	15	33.9	282	15	3	29.8	1.671	2.0
5.4	4.5	0.6	7.56	0.48	16	25.6	159	10	3	22.3	2.341	2.0
5.5	4.4	0.6	12.13	0.73	17	43.4	267	26	4	21.9	2.216	2.6
5.5	4.8	0.3	5.00	0.34	14	23.3	83	5	4	12.9	2.654	2.6
5.4	4.9	0.3	5.33	0.40	13	21.4	84	6	8	14.0	2.596	2.6
5.6	4.9	0.3	3.61	0.25	15	12.0	50	3	3	15.0	2.519	2.6
6.0	5.2	0.1	0.88	0.09	10	2.5	6	1	0	8.0	2.167	2.6
5.4	4.5	0.5	8.14	0.60	13	22.9	446	9	7	69.4	1.894	4.9
5.2	4.2	1.5	9.89	0.72	14	28.1	248	19	8	31.7	1.099	4.9
5.2	4.2	1.3	11.14	0.79	14	36.9	265	22	5	25.5	2.276	2.0
5.5	4.6	0.4	2.46	0.18	13	15.3	93	4	6	21.6	2.441	2.0
5.6	4.9	0.3	-	-	-	12.2	91	8	24	27.0	2.188	2.0
5.4	4.6	0.8	7.80	0.48	16	21.6	210	26	15	34.7	1.604	1.8
5.7	4.8	0.4	5.42	0.29	19	16.7	100	3	12	21.6	2.035	1.5
5.6	4.7	0.4	7.15	0.42	17	29.1	143	13	17	17.5	2.406	1.5
5.9	5.2	0.1	-	-	-	7.4	38	2	18	17.6	1.853	1.3
5.5	4.6	1.3	5.37	0.38	14	12.5	108	7	5	30.4	1.203	1.5
5.8	4.9	0.5	4.98	0.34	15	14.1	90	3	3	22.7	2.038	2.0
5.9	5.3	0.3	3.43	0.21	16	8.6	44	8	3	17.4	2.136	1.5
6.3	5.4	0.1	-	-	-	9.9	30	2	3	11.1	1.886	1.5
6.3	5.4	0.1	-	-	-	1.4	15	2	4	35.7	887	1.5

土壤分析成績 (畑)

保全 对策 区	土 壤 区 号	地 点 番 号	層 位	深 度 cm	理 学 性										現 地 に お け る 理 学 性					
					隙 隙 物 中 % (%)	腐 植 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	100CC 容 積 中						
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %		
中 雪 裡	中 幌 呂 南	68	1	0~8	}	-	7.4	10.6	7.4	42.9	50.3	37.2	12.5	L	87.1	37.8	58.7	3.5	62.2	
			2	8~16			7.4	10.6	7.4	42.9	50.3	37.2	12.5	L	56.8	22.7	51.0	26.3	77.3	
			3	16~40			12.6	4.9	16.7	66.5	83.2	14.2	2.5	SL	57.4	21.6	47.4	31.0	78.4	
			4	40~75			10.8	1.9	17.3	73.9	91.2	6.1	2.7	LS	-	-	-	-	-	
	中 久 著 呂 中 央	6		1	0~10	}	-	4.4	6.1	8.6	53.5	62.1	24.9	13.0	L	95.6	39.2	55.4	5.4	60.8
				2	10~17			5.9	2.6	9.4	47.6	57.0	30.5	12.5	L	-	-	-	-	-
				3	17~26			5.8	3.7	8.5	53.6	62.1	33.5	4.4	L	-	-	-	-	-
				4	26~88			3.3	1.1	18.0	31.1	49.1	50.0	0.9	SiL	-	-	-	-	-
	中 久 著 呂 南	5		1	0~12	}	-	7.2	12.1	10.2	38.1	48.3	39.5	12.1	L	-	-	-	-	-
				2	12~27			8.4	6.9	3.2	40.0	43.2	51.1	5.7	SiL	-	-	-	-	-
				3	27~40			12.1	16.8	21.6	36.5	58.1	30.1	11.9	L	-	-	-	-	-
				4	40~60			11.7	4.6	44.4	34.7	79.1	8.4	12.5	SL	-	-	-	-	-
				5	60~75			4.6	-	59.8	29.7	89.5	1.5	9.0	LS	-	-	-	-	-
				6	75~90			6.6	-	40.0	36.2	76.2	19.9	4.0	SL	-	-	-	-	-
7				90~	-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
下 雪 裡	下	18	1	0~26	}	-	8.6	9.8	3.5	43.8	47.3	39.7	12.9	L	-	-	-	-	-	
			2	26~35			8.5	14.6	3.3	36.5	39.8	52.6	7.6	SiL	-	-	-	-	-	
			3	35~44			6.1	5.2	2.7	49.6	52.3	47.1	0.6	SiL	-	-	-	-	-	
			4	44~75			12.7	14.4	12.9	36.2	49.1	41.3	9.7	L	-	-	-	-	-	
			5	75~93			12.3	5.3	19.9	56.2	76.1	21.5	2.3	SL	-	-	-	-	-	
			6	93~			8.0	-	27.2	64.7	91.9	6.9	1.2	S	-	-	-	-	-	
	雪 裡	22		1	0~14	}	-	7.5	12.3	5.8	41.1	46.9	40.1	13.0	L	78.5	34.2	59.5	6.3	65.8
				2	14~20			6.1	4.8	4.8	44.2	49.0	46.8	4.2	SiL	-	-	-	-	-
				3	20~24			12.7	11.8	20.8	44.6	65.1	28.9	6.1	SL	-	-	-	-	-
				4	24~36			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				5	36~60			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				6	60~			9.8	-	30.2	67.1	97.3	2.0	0.7	S	-	-	-	-	-
	雪 裡	64		1	0~20	}	-	5.7	11.9	4.3	40.0	44.3	39.3	16.3	CL	85.3	38.3	55.8	15.9	61.7
				2	20~24			6.6	12.6	0.9	20.3	21.2	65.4	13.4	SiL	-	-	-	-	-
				3	24~37			3.7	-	1.1	26.4	28.6	68.5	2.8	SiL	-	-	-	-	-
				4	37~53			2.3	-	0.6	30.9	31.5	66.3	2.1	SiL	-	-	-	-	-
				5	53~			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

化 学 性												
PH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 効 能 磷 酸 mg/ 100g
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
6.0	5.0	1.3	6.34	0.48	13	19.8	301	10	8	54.0	2067	3.0
6.0	5.3	0.5	2.96	0.24	12	17.3	183	11	4	37.6	744	2.3
5.6	5.1	0.6	1.14	0.11	10	12.6	83	14	4	23.8	2345	2.3
5.3	4.6	0.8	3.63	0.33	11	19.8	328	4	38	59.1	906	8.6
5.6	4.7	0.6	1.68	0.15	11	23.5	423	13	69	64.2	1133	5.5
5.9	4.8	0.4	2.23	0.20	11	25.3	476	24	65	67.2	1028	3.5
5.9	4.9	0.4	0.67	0.06	11	12.2	225	17	52	65.6	573	6.5
5.3	4.6	1.0	7.26	0.55	13	21.6	222	17	16	36.6	1531	2.0
5.5	4.8	0.6	4.13	0.28	15	13.2	73	3	9	19.7	1854	2.6
5.3	4.6	0.8	10.5	0.53	19	44.2	214	22	16	17.2	2624	2.6
6.1	5.3	0.1	2.73	0.15	18	11.6	39	3	11	12.1	2055	2.6
5.9	5.2	0.1	—	—	—	4.4	6	2	3	4.5	1289	2.6
5.5	4.9	0.3	—	—	—	9.8	71	3	8	25.5	1624	3.4
5.5	4.8	0.6	5.87	0.39	15	21.7	287	8	3	47.0	1346	1.8
5.6	4.8	0.4	8.75	0.58	15	34.9	554	13	4	56.4	2018	0.7
5.7	5.0	0.4	3.10	0.21	14	11.9	143	13	2	42.9	2038	1.3
5.4	4.7	0.5	8.47	0.54	16	43.3	373	13	5	30.7	1859	1.3
5.7	5.1	0.3	3.16	0.24	13	19.1	107	5	3	19.9	2656	2.0
5.6	5.1	0.8	—	—	—	11.9	64	17	9	19.3	2441	tr
5.9	5.0	0.3	7.37	0.52	14	29.2	541	10	8	66.1	1462	2.6
6.0	5.2	0.4	2.90	0.20	14	10.2	113	26	5	39.2	1715	1.8
5.6	4.9	0.3	7.09	0.46	15	34.7	275	12	6	28.2	1548	1.8
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5.5	5.0	0.1	—	—	—	11.2	101	8	15	32.1	2526	tr
6.5	5.5	0.6	7.14	0.46	16	27.3	715	35	28	93.4	1825	5.7
6.0	5.0	0.5	7.58	0.48	16	21.3	278	16	13	46.5	1387	2.0
6.1	5.2	0.6	—	—	—	5.4	59	9	7	38.9	1962	3.0
6.0	5.1	0.5	—	—	—	2.0	11	2	7	20.0	1137	2.3

土質分析成績(畑)

保全 対策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現 地 に お け る 理 学 性 100CC				
					礫 (屎 糞物 中) %	風乾細土中		細土無機物中					土 性	容 積 重 ♀	固 相 容 積 CC	水 分 容 積 CC	空 気 容 積 CC	孔 隙 率 %	
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %							
中 久 著 呂	中	8	1	0~20	-	4.9	11.1	5.5	38.8	44.3	41.0	14.7	L	-	-	-	-	-	
			2	20~25	-	8.0	10.2	10.6	35.5	46.1	39.0	14.8	L	-	-	-	-	-	
			3	25~32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			4	32~38	-	9.0	9.2	14.8	35.8	50.6	32.6	16.7	CL	-	-	-	-	-	
			5	38~50	-	6.1	3.7	28.8	39.6	68.4	23.8	7.7	SL	-	-	-	-	-	
			6	50~64	-	4.5	-	75.7	18.7	94.4	4.2	1.4	S	-	-	-	-	-	
			7	64~80	-	4.0	-	52.1	31.5	83.6	14.3	2.1	SL	-	-	-	-	-	
	雪 裡	11	1	0~15	-	5.9	10.6	9.6	41.4	51.0	35.9	13.1	L	77.0	33.2	56.0	10.8	66.8	
			2	15~24	-	7.3	9.7	12.6	41.6	54.2	37.4	8.5	L	-	-	-	-	-	
			3	24~42	-	9.6	6.6	13.0	41.4	54.4	39.9	5.6	L	-	-	-	-	-	
			4	42~55	-	7.0	4.0	21.9	48.2	70.1	28.6	1.4	SL	-	-	-	-	-	
			5	55~70	-	2.9	-	42.4	38.5	80.9	16.5	2.6	SL	-	-	-	-	-	
			6	70~94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			7	94~	-	7.6	-	26.6	47.0	73.6	24.1	2.3	SL	-	-	-	-	-	
中 久 著 呂	3	1	0~24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	84.5	36.3	49.4	14.3	63.7	
		2	24~27	-	8.4	4.2	2.2	45.2	47.4	44.9	7.6	L	-	-	-	-	-		
		3	27~30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		4	30~35	-	6.3	6.6	12.7	50.2	62.9	32.1	5.0	L	-	-	-	-	-		
		5	35~45	-	3.9	2.9	56.0	28.7	84.7	13.2	2.1	SL	-	-	-	-	-		
		6	45~60	-	7.3	-	2.3	60.1	62.4	33.4	4.2	L	-	-	-	-	-		
ツ ル ハ ン ナ イ	下 久 著 呂 南	27	1	0~15	-	4.8	4.3	1.3	21.8	23.1	58.1	18.5	SiCL	-	-	-	-	-	
			2	15~30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			3	30~45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			4	45~47	-	1.2	-	1.1	50.8	51.9	43.9	4.2	L	-	-	-	-	-	
			5	47~50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	中 幌 呂	67	1	0~10	-	1.9	5.3	1.8	54.2	56.0	38.9	5.1	L	-	-	-	-	-	
			2	10~20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			3	20~28	-	8.9	31.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
			4	28~35	-	4.1	7.9	1.9	41.6	43.5	50.7	5.9	SiL	-	-	-	-	-	
			5	35~50	-	8.7	15.0	8.0	33.6	41.6	29.9	28.5	LiC	-	-	-	-	-	
	音 根 内	75	1	0~23	-	7.4	30.2	12.1	33.5	45.6	35.6	18.8	CL	-	-	-	-	-	
			2	23~28	-	1.0	2.1	1.6	55.1	56.7	19.2	24.1	SCL	-	-	-	-	-	
			3	28~	-	13.4	79.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	ツ ル ナ ハイ	80	1	0~10	-	4.5	11.1	2.4	46.1	48.5	40.7	10.8	L	-	-	-	-	-	
			2	10~60	-	12.2	53.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
3			60~80	-	1.1	1.9	1.4	50.1	51.5	45.1	3.3	SiL	-	-	-	-	-		

化 学 性												
pH		置 換 酸 度 Y ₁	有 機 物			塩 基 置 換 容 量 me/100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有 効 態 磷 酸 mg/100g
H ₂ O	KCl		T-C	T-N	C/N		CaO	MgO	K ₂ O			
5.4	4.8	0.6	6.64	0.54	12	22.0	355	6	7	57.7	1.460	3.9
5.7	4.7	1.3	6.14	0.46	13	24.8	200	4	3	28.6	2.102	1.0
5.3	4.5	1.3	5.53	0.41	13	27.2	186	8	3	24.3	2.253	1.3
5.4	4.7	0.6	2.21	0.16	14	13.0	90	5	12	24.6	1.834	1.8
5.4	4.8	0.5	—	—	—	11.9	88	5	43	26.0	5.63	2.0
5.6	4.7	0.5	—	—	—	8.1	70	5	22	30.9	1.198	3.5
5.4	4.9	0.1	6.35	0.48	13	21.8	466	9	20	76.1	1.463	4.7
5.7	4.9	0.1	5.82	0.43	13	22.5	403	5	36	64.0	1.832	2.6
5.8	5.1	0.1	3.99	0.30	13	18.0	222	5	11	43.9	2.168	2.0
5.9	5.2	0.1	2.40	0.20	12	9.2	73	3	11	28.3	1.782	2.0
6.0	5.2	0.1	—	—	—	3.1	11	2	7	12.9	5.62	1.5
6.3	5.3	0.1	—	—	—	14.4	110	6	7	27.1	1.917	1.8
5.8	4.8	0.4	2.49	0.18	14	8.9	141	5	29	56.2	810	5.3
5.7	4.7	0.6	3.99	0.31	13	21.9	255	18	73	41.5	1.628	3.0
5.8	4.7	0.8	1.72	0.11	16	10.0	99	9	42	35.0	1.066	3.0
5.9	4.5	1.9	—	—	—	18.7	203	22	61	38.5	1.364	2.6
5.8	4.6	1.9	2.57	0.26	10	23.5	327	23	6	49.4	1.163	2.6
5.9	4.8	1.3	—	—	—	3.8	45	6	2	42.1	1.293	13.1
5.6	4.6	2.5	3.17	0.20	16	7.1	40	2	3	19.7	707	3.9
5.1	4.1	0.6	18.76	1.56	12	40.5	176	18	5	15.6	44	2.6
5.5	4.4	6.9	4.76	0.38	13	11.9	26	2	2	7.6	678	2.0
5.5	4.3	2.5	8.97	0.57	16	34.8	108	15	4	11.2	1.323	2.0
4.8	3.9	8.8	18.09	0.63	29	49.0	163	49	12	11.8	1.480	3.0
5.3	4.4	3.1	1.24	0.02	54	2.8	11	1	1	14.3	1.208	8.3
4.2	3.3	6.3	4.780	0.64	75	95.8	382	103	7	14.2	1.50	3.9
5.3	4.6	0.5	6.63	0.44	15	16.5	182	23	15	39.4	1.717	3.0
5.3	4.4	1.3	3.209	1.83	17	64.5	963	34	25	53.2	501	3.5
6.0	5.0	0.6	1.16	0.06	19	2.4	27	6	4	41.7	51	6.2